

# 河内長野市遺跡調査会報XIII

ジョウノマエ遺跡  
尾崎遺跡  
尾崎北遺跡  
菱子尻遺跡  
市町東遺跡

1996年3月

河内長野市遺跡調査会

## 序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向う街道の要衝として発展してきた街です。この為市内には数多くの文化財が残されています。

このような河内長野市も大阪市内への通勤圏に位置しているため住宅都市として近年、開発の波が押し寄せて来ています。この開発がもたらす文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。特に、地下に眠る埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。このような状況の中で、遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、更には未来の市民へ伝えていく事は、現代に生きる私達の責務であります。河内長野市に於いては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達のメッセージの一部でもある文化財に対するご理解を深めていただくとともに、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

これらの発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成8年3月

河内長野市遺跡調査会

理事長 中尾謙二

## 例　　言

1. 本報告書は昭和62年度から平成5年度に河内長野市遺跡調査会が下記の通り委託を受けて実施した遺跡の調査報告書である。

ジョウノマエ遺跡・1987年度尾崎遺跡(大阪府)、1993年度尾崎遺跡(エッソ石油株式会社)、尾崎北遺跡(奥野フサエ)、菱子尻遺跡(開発観光株式会社)、市町東遺跡(河内長野市)

2. 本報告にかかる事務は調査会事務局長松垣孝康が主担した。

3. 調査及び本書の執筆は、河内長野市教育委員会尾谷雅彦が鳥羽正剛、杉本(中村)清美(現大阪府教育委員会)の協力のもとに行った。編集は杉本祐子がこれを補佐した。尚、本書の文責は尾谷が負うものである。

4. 遺物の写真撮影は中西和子が行った。

5. 外業調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。(敬称略)

池田武・今西(杉山)和良・嘉悦真紀子・喜多順子・楠木理恵・久保八重子・古島亮介・小谷陽子・小森光・佐々木恵里・重野真紀・甚口博美・鈴木(明地)奈緒美・鈴木雅子・高田加容子・田川富子・田中良明・田村知子・中尾智行・中田文・中野雅美・中村嘉彦・林和宏・坂東正法・東田幸子・東原美佳・平井令子・福島里浦・福永(田中)美千代・藤井美佐子・古井晶子・古池陽子・桥本裕子・松尾和代・松村佳映・三井義勝・牟田口京子・山本有佳子・結城(阪本)桂子

6. 発掘調査及び内業整理については下記の方々の協力、指導を得た。記して感謝する。

(敬称略)

栗田薰(富田林市教育委員会)・奥野フサエ・堀江門也(大阪府教育委員会)・大阪府富田林土木事務所・エッソ石油株式会社・開発観光株式会社・株式会社島田組

7. 航空測量については写潤エンジニアリング株式会社・株式会社エアロが実施した。

8. 本調査については、写真・実測図等の記録及びカラースライドを作成した。また、出土遺物については市教育委員会で保管し、一部は市立郷土資料館で展示している。広く一般の方々に利用されることを希望する。

## 凡 例

1. 本報告書に掲載されている標高は T P を基準としている。
2. 土色については、新版標準土色帖1990年度版による。
3. 平面測量基準は国家座標第VI系による 5 m メッシュを基に実施したものである。
4. 図中の北は座標北である。
5. 遺構実測図の縮尺率は、1/30・1/40・1/60・1/80・1/100・1/120・1/300とした。
6. 本書の遺構名は下記の略記号をもちいた。

S B ……掘立柱建物      S D ……溝      S E ……井戸      S K ……土坑  
S P ……ピット      S U ……集石遺構      N R ……自然流路      S X ……その他

7. 遺構番号は、各遺構ごとに既往の調査を含めて一連番号を記した。この為本書では番号が途中からである。
8. 遺物実測図の縮尺率は、土器1/4、石器2/3を基準に各遺物の状況により、縮尺は変えている。
9. 須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器の断面は黒塗り、土師器・土師質土器・黒色土器の断面は白抜きである。又、黒色土器の黒色部分にはスクリーントーンを付した。
10. 瓦器塊の形式分類は、尾上実氏の和泉型瓦器塊の編年に基づくものである。
11. 遺物番号と写真図版の番号とは一致する。

# 目 次

序文

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

国版目次

付図目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経過.....	1
第2節 歴史的環境.....	1
第2章 調査の結果.....	5
第1節 ジョウノマエ遺跡 (J NM88) .....	5
1 概略.....	5
2 層序.....	6
3 遺構と遺物.....	9
4 まとめ.....	15
第2節 尾崎遺跡 (O S K87) .....	16
1 概略.....	16
2 層序.....	17
3 遺構と遺物.....	17
4 まとめ.....	24
第3節 尾崎遺跡 (O S K93-1) .....	26
1 概略.....	26
2 層序.....	27
3 遺構と遺物.....	28
4 まとめ.....	32
第4節 尾崎北遺跡 (O S N93-1) .....	33
1 概略.....	33
2 層序.....	33
3 遺構と遺物.....	34

4	まとめ	37
第5節	菱子尻遺跡 (H S K90-2)	39
1	概略	39
2	層序	40
3	遺構と遺物	40
4	まとめ	43
第6節	市町東遺跡 (I C H90-1)	45
1	概略	45
2	層序	46
3	遺構と遺物	46
4	まとめ	47

## 挿 図 目 次

第1図	河内長野市遺跡分布図(1/40000)	2
	ジョウノマエ遺跡(J NM88)	
第2図	J NM 調査区位置図(1/5000)	5
第3図	J NM 第1調査区北西壁・北東壁土層断面実測図(1/60)	6
第4図	J NM 第2調査区西壁土層断面実測図(1/60)	6
第5図	J NM 遺構配置図(1/300)	7~8
第6図	J NM S B 1出土遺物実測図	9
第7図	J NM S B 1遺構実測図(1/60)	9
第8図	J NM S B 2遺構実測図(1/60)	9
第9図	J NM S D 8~10出土遺物実測図	10
第10図	J NM S D 9~11・13遺構断面実測図(1/40)	11
第11図	J NM S E 3遺構実測図(1/60)	12
第12図	J NM S E 3出土遺物実測図	12
第13図	J NM SK 4・5出土遺物実測図	13
第14図	J NM SK 3遺構実測図(1/30)	13
第15図	J NM S P 2~6出土遺物実測図	13
第16図	J NM 包含層出土遺物実測図	14
	尾崎遺跡(O S K87)	
第17図	O S K 調査区位置図(1/5000)	16

第18図	O S K 遺構配置図(1/300) .....	16
第19図	O S K 西壁土層断面実測図(1/60).....	17
第20図	O S K S B 1・3出土遺物実測図.....	17
第21図	O S K S B 1 遺構断面実測図(1/120) .....	18
第22図	O S K S B 2 遺構実測図(1/60).....	19
第23図	O S K S B 3 遺構実測図(1/60).....	19
第24図	O S K S B 4 遺構実測図(1/60).....	20
第25図	O S K S D 4 出土遺物実測図.....	21
第26図	O S K S E 1 遺構実測図(1/30).....	21
第27図	O S K S E 1 出土遺物実測図.....	21
第28図	O S K S K 1 遺構断面実測図(1/40).....	22
第29図	O S K S K 2 遺構実測図(1/30).....	22
第30図	O S K S K 4 遺構実測図(1/30).....	22
第31図	O S K S P 1 出土遺物実測図.....	23
第32図	O S K S P 1 遺構実測図(1/30).....	23
第33図	O S K S X 1 遺構実測図.....	23
第34図	O S K S X 1 出土遺物実測図.....	24
第35図	O S K 包含層出土遺物実測図.....	25
尾崎遺跡(O S K93-1)		
第36図	O S K 調査区位置図(1/5000).....	26
第37図	O S K 遺構配置図(1/300) .....	26
第38図	O S K 西壁土層断面実測図(1/80).....	27
第39図	O S K S D 3 出土遺物実測図.....	28
第40図	O S K S D 19出土遺物実測図.....	30
第41図	O S K S E 2 出土遺物実測図.....	30
第42図	O S K S K 5 出土遺物実測図.....	31
第43図	O S K 包含層出土遺物実測図.....	32
尾崎北遺跡(O S N93-1)		
第44図	O S N 調査区位置図(1/5000).....	33
第45図	O S N 遺構配置図(1/200) .....	33
第46図	O S N 北西壁・東北壁土層断面実測図(1/60).....	34
第47図	O S N S D 1 遺構実測図(1/40) .....	35
第48図	O S N S D 2 遺構実測図(1/40) .....	35
第49図	O S N S D 1・2 出土遺物実測図.....	35
第50図	O S N S K 1～3 出土遺物実測図.....	36

第51図	O S N	S P 1 出土遺物実測図	37
第52図	O S N	N R 1 出土遺物実測図	37
第53図	O S N	包含層出土遺物実測図 菱子尻遺跡(H S K90-2)	37
第54図	H S K	調査区位置図(1/5000)	39
第55図	H S K	遺構配置図(1/300)	39
第56図	H S K	南西壁土層断面実測図(1/60)	40
第57図	H S K	S K 3 遺構実測図(1/30)	41
第58図	H S K	S K 1~4 出土遺物実測図	42
第59図	H S K	S X 2 遺構断面実測図(1/40)	42
第60図	H S K	S X 3 遺構断面実測図(1/40)	42
第61図	H S K	S X 1~4 出土遺物実測図	43
第62図	H S K	S X 4 遺構断面実測図(1/40)	43
第63図	H S K	包含層出土遺物実測図 市町東遺跡(I C H90-1)	43
第64図	I C H	調査区位置図(1/5000)	45
第65図	I C H	遺構配置図(1/60)	45
第66図	I C H	南西壁土層断面実測図(1/60)	46
第67図	I C H	S B 1 遺構実測図(1/60)	46
第68図	I C H	S K 1 出土遺物実測図	46
第69図	I C H	包含層出土遺物実測図	47

## 表 目 次

第1表	河内長野市遺跡地名表	3
-----	------------	---

## 図 版 目 次

ジョウノマエ遺跡(J NM88)

図版1	遺構 第1・2調査区 全景(真上から)、第1調査区全景(北から)
図版2	遺構 第1調査区 全景(南から)、S B 1(西から)

- 図版3 遺構 第2調査区 全景(南東から)、全景(西から)
- 図版4 遺構 第2調査区 S E 3(西から)、S D 10(北から)
- 図版5 遺構 第2調査区 S K 3(北から)、S K 4(西から)
- 図版6 遺物 第1・2調査区 S B 1(1)、S D 8(4)、S D 9(2・6)、S D 10(3・5・7~11)
- 図版7 遺物 第1・2調査区 S E 3(12・13)、S K 4(16)、S K 5(17)、S P 2(23)、S P 3(24)、S P 4(18)、S P 5(25)、S P 6(19~22)
- 図版8 遺物 第1・2調査区 包含層(26~33・35~39)  
尾崎遺跡(O S K87)
- 図版9 遺構 全景(北から)、S B 1(南から)
- 図版10 遺構 S B 2~4、S X 1(北から)、S D 2(北西から)
- 図版11 遺構 S E 1(北から)、S K 1(北から)
- 図版12 遺構 S K 2(西から)、S K 3
- 図版13 遺構 S P 1(西から)  
遺物 S B 1(1・2)、S B 3(3~5)、S D 4(6・7)、S E 1(8~10)
- 図版14 遺物 S E 1(11~14)、S P 1(15)、S X 1(16~29)、包含層(30・33)
- 図版15 遺物 包含層(31・32・35~46・48~50・52~59)
- 図版16 遺構 全景(西から)  
尾崎遺跡(O S K93-1)
- 図版17 遺構 S D 3・6・7、S E 2、S K 7・9(東から)、S E 2(南から)
- 図版18 遺構 S D 18(東から)  
遺物 S D 3(60)、S D 19(61)、S E 2(62~67)、S K 5(68・69・71・73)、包含層(74~76・79~84)  
尾崎北遺跡(O S N93-1)
- 図版19 遺構 全景(北から)、S D 1(南から)
- 図版20 遺構 S D 1 遺物出土状況(南から)  
遺物 S D 1(1~9)
- 図版21 遺物 S D 2(10・11)、S K 1(12~15)、S K 2(16)、S K 3(17)、S P 1(18~20)、N R 1(21~24・26~30)、包含層(31~33)  
菱子尻遺跡(H S K90-2)
- 図版22 遺構 全景(北から)、全景(南から)
- 図版23 遺構 全景(西から)、S D 2(南西から)
- 図版24 遺物 S K 1(5)、S K 2(6)、S K 3(7)、S K 4(1~4)、S X 1(17)、S X 2(14~16)、S X 3(11~13)、S X 4(8~10)、包含層(18)  
市町東遺跡(I C H90-1)

図版25 遺構 全景(北から)、SK 1(北から)

図版26 遺構 SU 1(北から)

遺物 SK 1(1~3)、包含層(4~6)

## 付 図 目 次

付図1 ジョウノマエ遺跡遺構全体図(1/100)

付図2 尾崎遺跡遺構全体図(1/100)

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経過

河内長野市は近年の著しい人口増加も一段落し、成熟した住宅都市としての様相を呈してきた。しかし、まだまだそれともなう都市の基盤整備を進めなければならない。このような状況の中で、市は公共上下水道、アクセス道路、公園等の都市機能の整備、文化会館などの文化施設の充実に努めている。

しかし、このような公共関係の整備も一般の開発と同じように埋蔵文化財を避けて通ることはできないものである。教育委員会と都市整備部局は、公共事業に関連する埋蔵文化財の取り扱いについては計画段階からの保存協議を進め、文化財保護と開発の調整に力を注いでいる。

## 第2節 歴史的環境

和泉山脈、金剛山地に源を発する石川の各支流や西除川は狭小な河谷を形成しながら北流する。河内長野市はこれら河川によって作られた谷や河岸段丘上に集落が発達している。特に中心となる長野や三日市は谷口の集落として、また、各谷筋を通る街道の要衝として発達してきたものである。

遺跡もまた、谷筋ごとに分布している。縄文時代の遺跡は最近増加しているが、石川本流から天見川沿いに北から向野遺跡、喜多町遺跡、三日市遺跡、小塙遺跡の4遺跡があり、後期を中心とする土器が出土している。また、石川本流には高向遺跡や宮山遺跡があり、宮山遺跡からは中期後半の土器と共に竪穴住居も確認されている。さらに、三日市遺跡や小塙遺跡からは早期の押型文土器が出土している。これらの遺跡以外に高木遺跡、寺ヶ池遺跡、菱子尻遺跡からはサヌカイト片や石器が出土している。

弥生時代は石川左岸の塙谷遺跡や天見川右岸の三日市遺跡から中期の遺物が、大師山遺跡からは後期の遺物が出土している。

古墳時代は天見川を見下ろす位置に前期の前方後円墳の大師山古墳、中期の三日市遺跡の古墳群、後期の鳥帽子形古墳が分布している。石川本流の向野町から寿町にかけては五ノ木古墳、法師塚古墳、双子塚古墳などの古墳が分布していた。また、石川の左岸の上原町には塙穴古墳が現存している。集落遺跡では前期から中期にかけては天見川沿いに三日市遺跡があり、後期前半では同じく天見川沿いに喜多町遺跡、そして左岸の段丘上に近接



第1図 河内長野市遺跡分布図(1/40000)

番号	文化財名称	種類	時代	番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町	64	椎現城跡	城館	中世
2	河合寺	社寺		(65)	天神社遺跡	社寺	
3	觀心寺	社寺	平安～	(66)	葛城第15経塚	經塚	
4	大御山古墳	古墳	古墳(前期)	67	加賀田神社遺跡	社寺	中世
5	大御山南古墳	古墳	古墳(後期)	68	庚申堂	社寺	
6	大御山遺跡	集落	弥生(後期)	69	石仏城跡	城館	中世
7	興禪寺	寺社		70	佐近城跡	城館	中世
8	鳥帽子形八幡神社	社寺	室町	71	鹿尾城跡	城館	中世
9	塚穴古墳	古墳	古墳(後期)	72	葛城第16経塚	經塚	
10	長池窯跡	生產	平安～近世	(73)	葛城第18経塚	經塚	
11	小山田1号古墓	古墓	奈良	(74)	葛城第19経塚	經塚	
12	小山田2号古墓	古墓	奈良	(75)	蛭尾塚	城館	中世
13	延命寺	寺社	平安～	(76)	大武塚	城館	中世
14	金剛寺	寺社	平安～	(77)	三國山城跡	經塚	
15	日野觀音寺遺跡	社寺	中世	(78)	光澤寺	社寺	
16	地蔵寺	寺社		(79)	葉子城跡	城館	中世
(17)	岩湧寺	寺社	平安～	80	蟹井觀音寺遺跡	社寺	
18	五ノ木古墳	古墳	古墳(後期)	(81)	川上神社遺跡	社寺	
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世	82	手代田神社遺跡	社寺	
20	鳥帽子形城跡	城館	中世～近世	83	向野遺跡	鰐塚・田	繩文～室町
21	喜多町遺跡	集落	縄文～中世	84	古野町遺跡	散布地	中世
22	鳥帽子形古墳	古墳	古墳(後期)	85	上原北遺跡	散布地	
23	末広窯跡	生產		86	大日寺遺跡	社寺	弥生・中世
24	塙谷遺跡	散布地	繩文～中世	87	高向南遺跡	散布地	繩文
25	流谷八幡神社	社寺		88	小塙遺跡	集落	繩文～奈良
26	蟹井湖南遺跡	散布地	中世	89	加施遺跡	集落	古墳(後期)
27	蟹井牛北遺跡	散布地	中世	90	尾崎北遺跡	集落	古墳～中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世	91	ジョウノマ遺跡	城塹?	中世
29	千早口駅南遺跡	散布地	中世	92	仁王山城跡	城館	中世
30	岩瀬薬師寺	寺社	近世	93	タコラ城跡	城館	中世
31	清木窯跡	散布地	中世	94	岩立城跡	城館	中世
32	伝仲京廟古墳	古墳?		95	上原近瓦窯	生產	近世
(33)	村地藏堂跡	社寺	近世	96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
34	塙煙堀墓	古墓	近世	97	上田町窯跡	生產	近世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世	98	尾崎北遺跡	散布地	古墳
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世	99	西之山町遺跡	集落	中世
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世	100	野間里遺跡	集落	平安
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世	101	鳴尾遺跡	散布地	中世
39	庵尻赤松堂跡	社寺	近世	102	上田町遺跡	散布地	繩文・中世
(40)	宮ノ下内墓	古墓	古墳	103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
41	宮山古墳	古墳?	古墳	104	小野塙跡	墳墓	
42	宮山遺跡	散布地	繩文～中世	(105)	葛城第17経塚	經塚	
43	西代蒲陣屋跡	城館	江戸	106	豪御堂跡	社寺	中世～
				107	野作遺跡	集落	中世
44	上原町墓地	散布地	飛鳥～奈良	108	寺元遺跡	集落	弥生・中世
45	悲持寺跡	社寺	鍾乳食	(109)	猪原遺跡	散布地	中世
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世	110	法師塚古墳跡	古墳	
47	寺ヶ池塙跡	散布地	繩文	111	山上講山古墳跡	古墳	
48	上原遺跡	散布地	中世	112	西浦遺跡	集落	古墳・中世
49	佐吉神社遺跡	社寺		113	地福寺跡	社寺	近世
50	高向神社遺跡	社寺	中世	114	宮の下遺跡	集落	平安・中世
51	育が原神社遺跡	社寺		115	栄町遺跡	散布地	弥生・古墳
52	箇所瀧河州出張所跡	城館	江戸	116	錦町遺跡	散布地	中世
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳	(117)	太井遺跡	散布地	中世
54	斐子尻遺跡	散布地	繩文～中世	118	鍋町北遺跡	社寺	弥生・中世
55	河合寺城跡	城館		119	吉町西遺跡	散布地	繩文・中世
56	三日市廬跡	集落	旧石器～近世	120	米町南遺跡	散布地	中世
57	日の谷城跡	城館	室町	121	米町東遺跡	散布地	
58	高木遺跡	散布地	繩文	122	浦町東遺跡	散布地	
59	沙の山城跡	城館	中世	123	沙の宮町南遺跡	散布地	奈良
60	峰山城跡	城館	中世	124	沙の宮町北遺跡	散布地	中世
61	稻荷山城跡	城館	中世	125	神ヶ丘近世墓	墳墓	近世
62	国見城跡	城館	中世	126	増福寺	社寺	中世
63	旗巣城跡	城館	中世	127	三味城遺跡	経塚・墓	中世・近世

( )は地図範囲外

第1表 河内長野市遺跡地名表

して小塙遺跡、加塙遺跡がある。

奈良時代になると、高向遺跡や喜多町遺跡、小塙遺跡から掘立柱建物や土坑が検出されている。また、本市と大阪狭山市との市境の小山田町からは2基の火葬墓が発見されている。

平安時代の遺跡は向野遺跡や天見川沿いの尾崎遺跡の10世紀の掘立柱建物や三日市遺跡の11～12世紀の掘立柱建物、そして石川本流の野間里遺跡が確認されている。また市内にある觀心寺や金剛寺などの寺院は平安時代末頃から伽藍が整い、多くの莊園を有していた。

中世になると交通路が整備され、各谷筋を通る高野街道や天野街道沿いに集落が分布している。特に、西高野街道では北から菱子尻遺跡や古野町遺跡があり、東高野街道では向野遺跡がある。西、東が一つとなって天見川沿いを南に伸びる高野街道では、合流付近の長野神社遺跡や喜多町遺跡、更に南に三日市遺跡、尾崎遺跡、ジョウノマエ遺跡、清水遺跡、千早口駅南遺跡(寺院跡も含む)、天見駅北方遺跡、蟹井淵北遺跡、蟹井淵南遺跡と続く。これらは明らかに街道と共に発達した遺跡である。集落跡以外では、同じように街道を見下ろす尾根上には南北朝から戦国時代にかけての城塞が20ヶ所分布している。生産遺跡としては、平安時代から中世にかけての炭焼窯と思われる窯跡が市内の山間部に分布している。

近世になると近江膳所藩や河内西代藩の陣屋跡があり、さらに、確認数は少ないが在郷瓦師の瓦窯跡も、地元の伝承通り確認されている。

## 第2章 調査の結果

### 第1節 ジョウノマエ遺跡(JNM88)

#### 1 概略(第2・5図)

当調査地は大阪府河内長野市加賀田地内、天見川による狭小な谷の出口、川の左岸の河岸段丘上、標高140m付近に位置する。

昭和62年の3月に国道371号線バイパス工事によって、古墳時代後期の土師器、須恵器が若干出土し、尾崎北遺跡の存在が確認された。そして昭和63年に遺物確認地点より南側の国道371号線のバイパス工事延進に先立ち試掘調査を実施した。その結果、遺物出土地点から南100mに位置する尾崎地区と、更に南側のジョウノマエ地区から遺物及び遺構が確認され尾崎遺跡、ジョウノマエ遺跡とそれぞれ命名された。

この発見により工事着手前に本調査を実施した。調査面積約950m<sup>2</sup>、実施期間昭和63年4月26日～5月24日である。

当調査地区は第1調査区と第2調査区の2つの小調査区に区割りした。第1調査区からは建物1棟、遺物を伴うピット3ヶ所、第2調査区からは建物1棟、建物に付随すると思われる溝1条、その他の溝9条、井戸2ヶ所、遺物を伴う土坑3ヶ所、遺物を伴うピット2ヶ所が検出された。

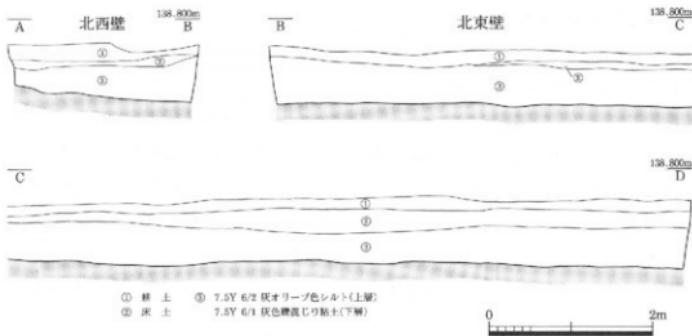


第2図 JNM 調査区位置図(1/5000)

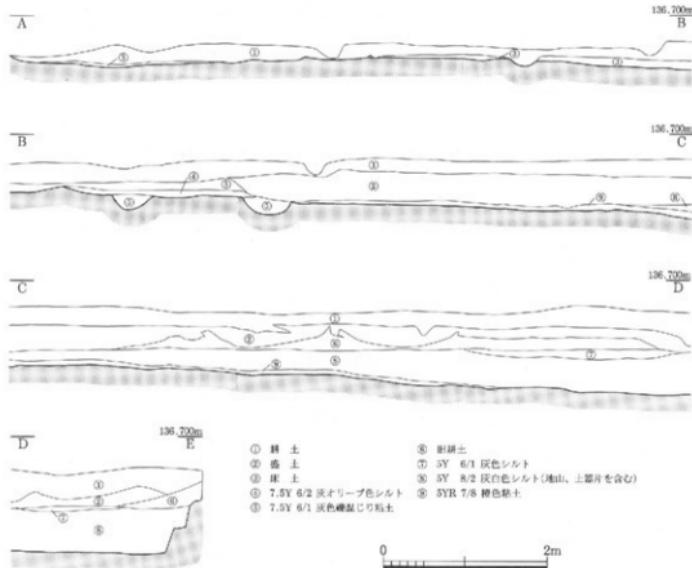
## 2 層序(第3・4図)

調査地の北側及び北東側がすぐに段丘崖になるため、第1調査区から第2調査区の北端に向かって標高を下げている。この為、層序は両調査区とも北側、北東側の層厚が厚い。

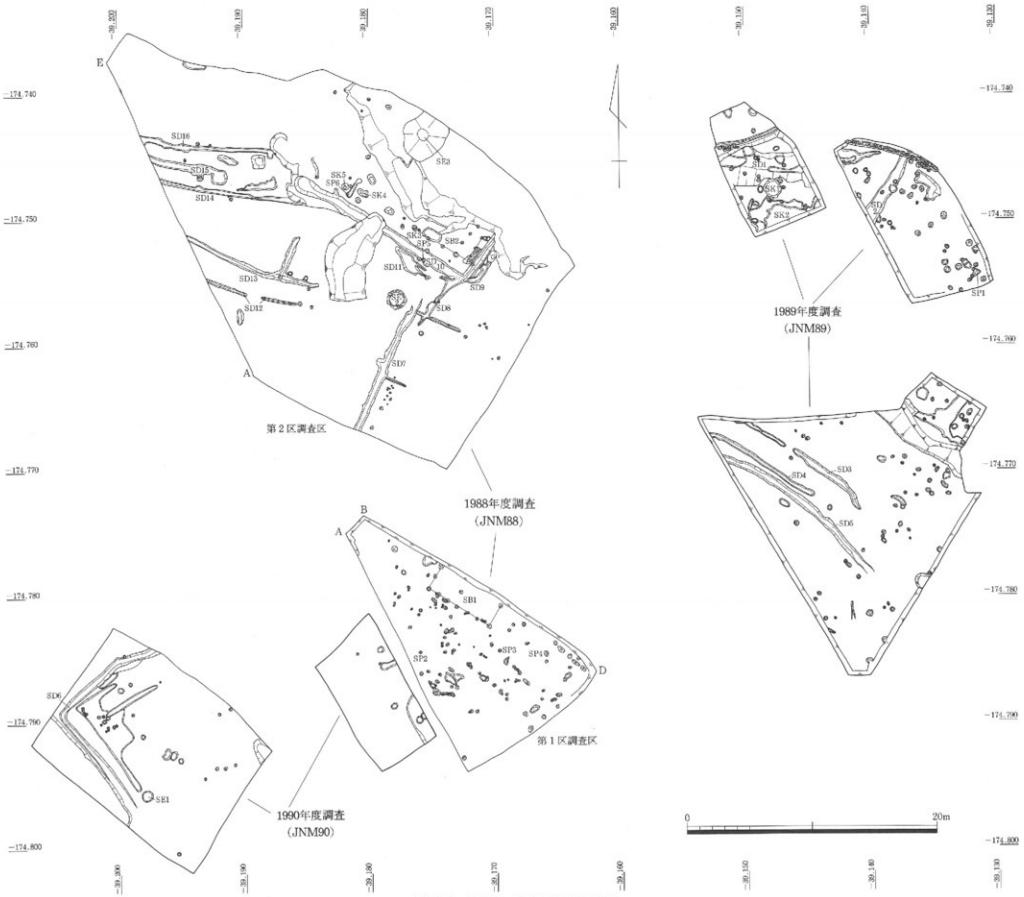
層順は基本的に耕土、床土、包含層となる灰オリーブ色シルトと灰色疊混じり粘土となる。第2調査区では最近、盛土して耕土を再度置き、畑にしている。また、北側は谷状の地形となるため、灰色シルト及び橙色粘土が層厚を厚くしながら堆積している。



第3図 J N M 第1調査区北西壁・北東壁土層断面実測図(1/60)



第4図 J N M 第2調査区西壁土層断面実測図(1/60)



第5図 JNM 遺構配置図(1/300)

### 3 遺構と遺物

#### (1) 堀立柱建物

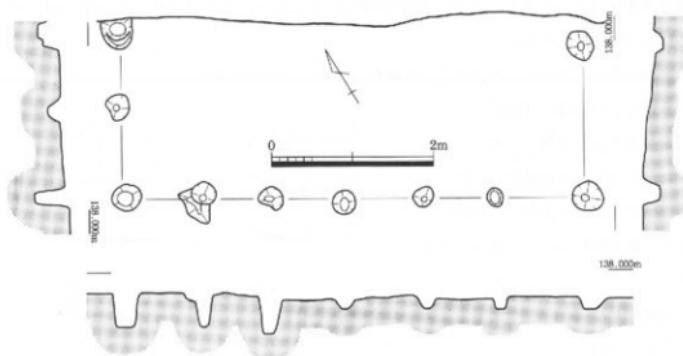
[SB 1] (第6・7図、図版2・6)

第1調査区の北東側から検出され、北東側は調査区外にのびる。桁行6間(5.8m)×梁行2間(2m)以上で桁行方向N-59°-Wの建物である。柱間は桁行0.9m、梁行1m。柱穴の径0.3m、深さ0.2mを測る。第1調査区の柱穴は多数検出されたが確実に復元できたのはこの1棟だけである。

遺物は柱穴から、瓦器塊(1)などが出土した。

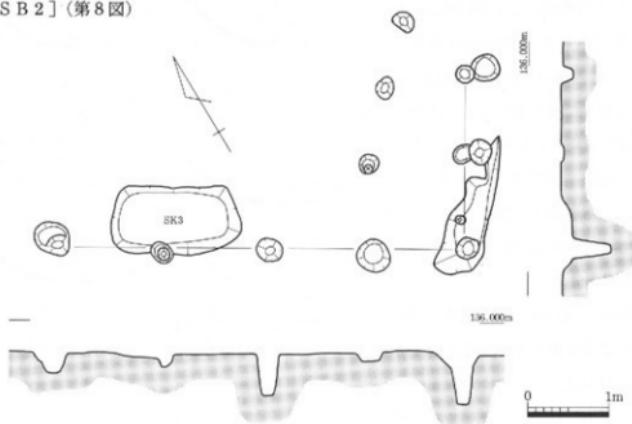


第6図 JNM SB 1出土遺物実測図



第7図 JNM SB 1 遺構実測図(1/60)

[SB 2] (第8図)



第8図 JNM SB 2 遺構実測図(1/60)

第2調査区の東側から検出され、北西側は削平されている。桁行4間(5.3m)×梁行2間(2.2m)以上で桁行方向N-59°-Wの建物である。柱間は桁行1.2m、梁行1.1m。柱径0.4m、深さ0.4mを測る。

遺物は柱穴から瓦器、須恵質土器の細片などが出土した。

## (2) 溝

溝は第2調査区で10条検出された。内4条から遺物が出土した。

### [SD 7]

第2調査区の南側で、やや東に振りながら南北に12m検出された直行する溝である。南側は調査区外にのびるが、北側は後世の耕作による削平のために消失している。最大幅1.1m、深さ0.2mを測る。

遺物は出土しなかったが、埋土の状況から近世の可能性が高い。

### [SD 8] (第9図、図版6)

第2調査区の東側で、やや東に振りながら南北に5m検出された不定形の溝である。北東側はSD10と接する。最大幅1.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器皿(4)、土師質土釜の細片などが出土した。

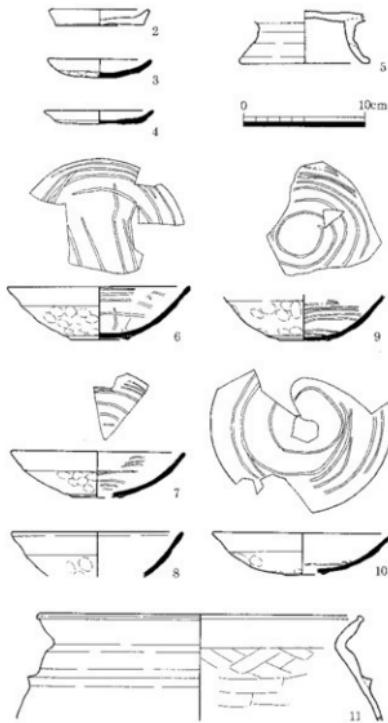
### [SD 9] (第9・10図、図版6)

SB2の東側、SD10の0.5m東側で検出された。検出長は南北に3.1mで南西側はSD10と重複する。溝の北東端で遺物が出土した。埋土は上層が黄褐色シルト混じりの中砂、下層は褐色細砂である。最大幅0.7m、深さは0.15mを測る。

遺物は土師質皿(2)、瓦器塊(6)などが出土した。

### [SD 10] (第9・10図、図版4・6)

SB2の東側と南側を走る溝で、SB2に付属すると考えられる。この為、平面形はL字形を呈する。検出長は南北に4m、東西に15mを測



第9図 J N M SD 8~10出土遺物実測図

る。西端の延長は確認されなかった。埋土は黄褐色系のシルト混じり中砂～粗砂が主体である。最大幅1.0m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質台付壺(5)、紀州系の土師質土釜(11)、瓦器皿(3)、瓦器塊(7~10)などが出土した。

#### [ S D11 ] (第10図)

第2調査区の東側で、S D10の南側に位置する検出長4mの不定形な溝である。埋土は上層が灰黄褐色シルト、下層はにぶい黄褐色中砂～粗砂である。最大幅1.2m、深さ0.08mを測る。

遺物は瓦器、土師質土器の細片などが出土した。

#### [ S D12 ]

第2調査区の西側で、S D11の西側9mに位置する。S D13と平行して北に振りながら東西に7.5m検出された直行する溝である。西側は調査区外にのびる。最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

#### [ S D13 ] (第10図)

第2調査区の西側で、S D12の北側2mに位置する。S D12と平行して北に振りながら東西に11m検出された直行する溝である。西側は調査区外にのびる。埋土は上層がにぶい黄橙色疊混じりシルト、下層はにぶい黄橙色シルトである。最大幅0.5m、深さ0.26mを測る。

遺物は出土しなかった。

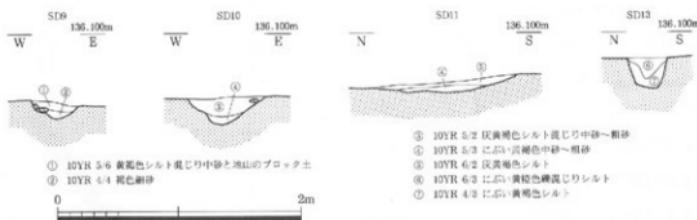
#### [ S D14 ]

第2調査区の西側で、S D13の北側4mに位置する。S D15・16と平行して東西に12.5m検出された直行する溝である。西側は調査区外にのびる。最大幅0.5m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

#### [ S D15 ]

第2調査区の西側で、S D14の北側1.5mに位置する。S D14・16と平行して東西に6.5



第10図 J N M S D 9 ~11・13 遷構断面実測図(1/40)

m検出された直行する溝である。西側は調査区外にのびる。最大幅1.4m、深さ0.3mを測る。

遺物は出土しなかった。

#### [ S D 16 ]

第2調査区の西側で、S D15の北側1.5mに位置する。S D14・15と平行し東西に11m検出された直行する溝である。西側は調査区外にのびる。最大幅0.6m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

#### (3) 井戸

井戸は2基だけである。

#### [ S E 2 ]

第2調査区のS D 7の北西0.5mに位置する。平面形が円形を呈する、川原石を積み上げた石積井戸である。井戸の規模は内径1.0m、深さ1.0m、掘方径1.7mを測る。

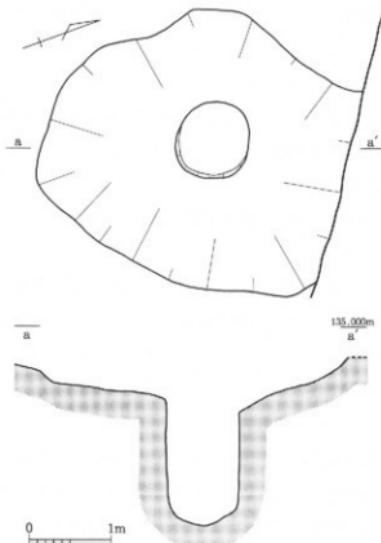
遺物は出土しなかった。

#### [ S E 3 ] (第11・12図、図版4・7)

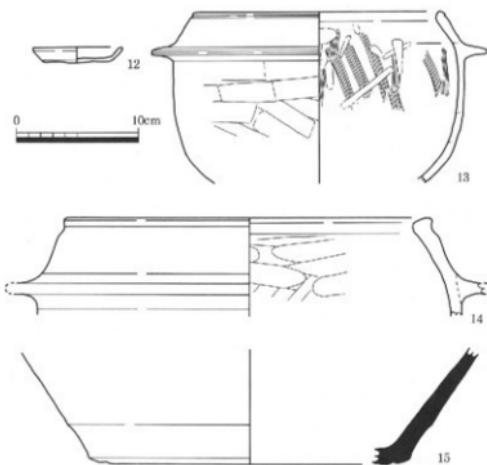
第2調査区のS B 2

の北側5mに位置する。平面形が不整円形を呈する、2段の素掘り井戸である。規模は長径3.5m、短径3.4m、深さ2mを測る。上端から1mで径0.9mの円形堀方となる。埋土は灰白色粘土と玉石が混じっている。

遺物は井戸内部から土師質皿(12)、土師質土釜(13・14)、須恵質甕底部(15)などが出土した。



第11図 J N M S E 3 遺構実測図(1/60)



第12図 J N M S E 3 出土遺物実測図

#### (4) 土坑

〔SK 3〕(第14図、図版5)

第2調査区のSB2の桁行中央に位置し、SB2の柱穴に切られている。平面形は隅丸方形を呈する。埋土には炭化物が挟在し、一部焼土も混じっている。主軸方向はN-73°-Wを示す。規模は長軸1.6m、短軸0.9m、深さ0.3mを測る。遺物は須恵質土器の細片などが出土した。

〔SK 4〕(第13図、図版5・7)

第2調査区のSB2の西北側約5mに位置する。平面形は不定形な梢円形を呈する。主軸方向はN-58°-Wを示す。規模は長径1m、短径0.6m、深さ0.4mを測る。

遺物は瓦器皿(16)が出土した。

〔SK 5〕(第13図、図版7)

第2調査区のSK4の西側約1mに位置する。平面形は梢円形を呈する。主軸方向はN-24°-Wを示す。規模は長径0.6m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器皿(17)が出土した。



第13図 J N M SK 4・5  
出土遺物実測図

第14図 J N M SK 3  
遺構実測図(1/30)

#### (5) 遺物出土ビット

〔SP 2〕(第15図、図版7)

第1調査区のSB1の南側約5mに位置する。平面形は円形を呈する。規模は径0.2m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器塊(23)が出土した。

〔SP 3〕(第15図、図版7)

第1調査区のSB1の南側約2mに位置する。平面形は円形を呈する。規模は径0.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器塊(24)が出土した。

〔SP 4〕(第15図、図版7)

第1調査区のSP3の東側約4mに位置する。平面形は梢円形を呈する。規模は長径0.5m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。

第15図 J N M S P 2～6 出土遺物実測図

0.5m、短径0.4m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿(18)が出土した。

〔S P 5〕(第15図、図版7)

第2調査区のS D10の東西に走る溝の中央南側に位置する。平面形は橢円形を呈する。

規模は長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。

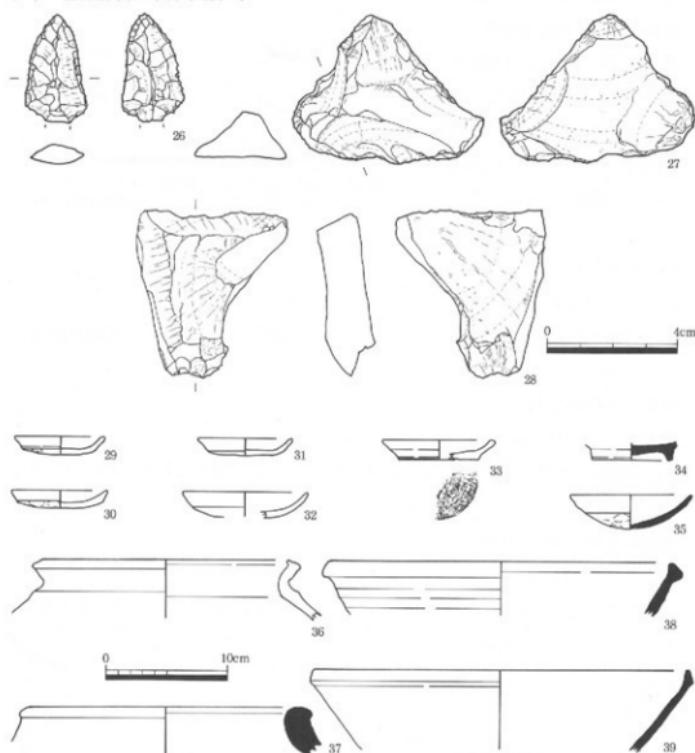
遺物は土師質土釜(25)が出土した。

〔S P 6〕(第15図、図版7)

第2調査区のS K 4の西侧約1mに位置する。平面形は円形を呈する。規模は径0.3m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿(19~22)が出土した。

(6) 包含層(第16図、図版8)



第16図 J N M 包含層出土遺物実測図

包含層からは縄文時代と思われるサヌカイト製の石鏃(26)及びサヌカイトの剝片(27・28)が出土した。他に土師質土器として皿(29~33)と土釜(36)がある。(33)には底部に糸切り痕が残り、(36)は紀州系である。(35)は瓦器塊、(37)は瓦質甕口縁部である。(38・39)は須恵質の練鉢で、(34)は青磁碗底部である。

#### 4　まとめ

遺構については、出土する瓦器塊が尾上編年のIII-2を中心とするもので13世紀の前半を中心とする時期である。また、地理的には前面が段丘崖となるような小丘陵の突端部で限られた範囲の中に遺構が存在する。このことは一般的な居住域とは考えられず、小字名や地区的伝承から城砦と関係をもつ可能性も考えられる。

#### 参考文献

- 『三日市遺跡調査報告書 I』 三日市遺跡調査会 1988年
- 『三日市遺跡調査報告書 II』 三日市遺跡調査会 1988年
- 『石仏遺跡発掘調査概要』 大阪府教育委員会 1982年

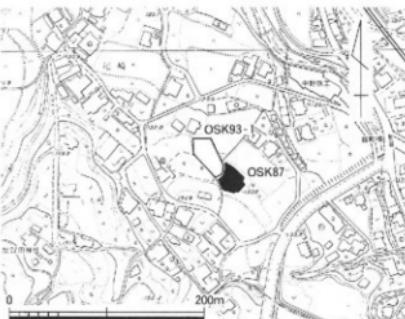
## 第2節 尾崎遺跡(OSK87)

### 1 概略(第17・18図)

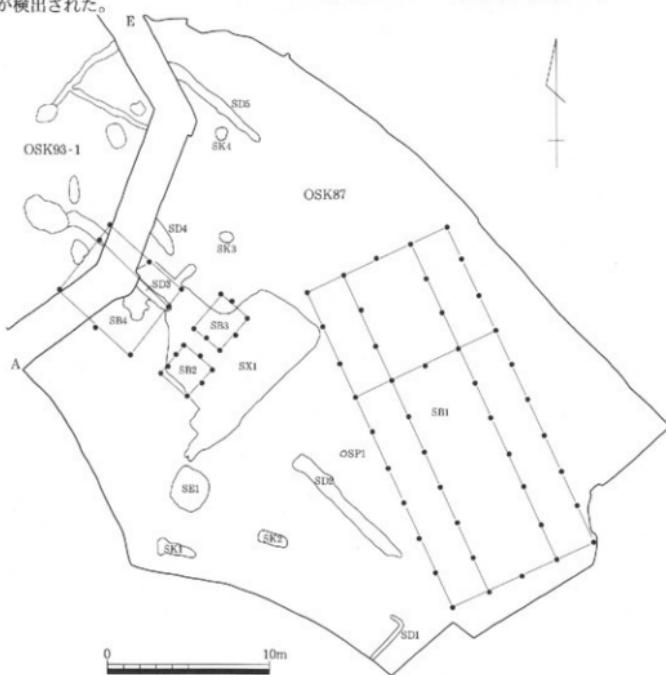
調査地は大阪府河内長野市加賀田地内、天見川左岸の河岸段丘上、標高135m付近に位置する。

調査は国道371号線バイパス工事に伴うもので調査面積約950m<sup>2</sup>、実施期間は昭和62年12月2日～12月25日である。

遺構は建物4棟、井戸1ヶ所、溝5条、炭化物や遺物を伴う土坑4ヶ所、遺物を伴うピット1ヶ所が検出された。



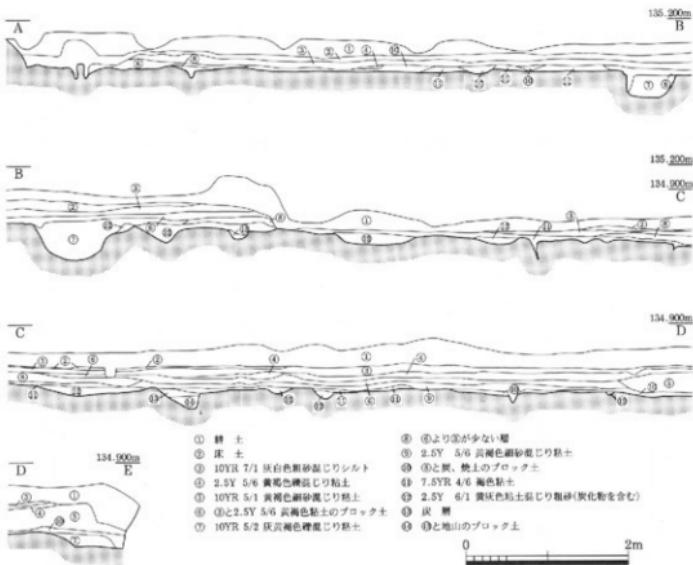
第17図 OSK 調査区位置図(1/5000)



第18図 OSK 遺構配置図(1/300)

## 2 層序(第19図)

層序は上層から耕土(約0.2m)、床土(約0.1m)、褐色系の包含層(約0.2m)、地山となっていたり、一部包含層が削平されている部分もあった。



第19図 OSK 西壁土層断面実測図(1/60)

## 3 遺構と遺物

### (1) 捜立柱建物

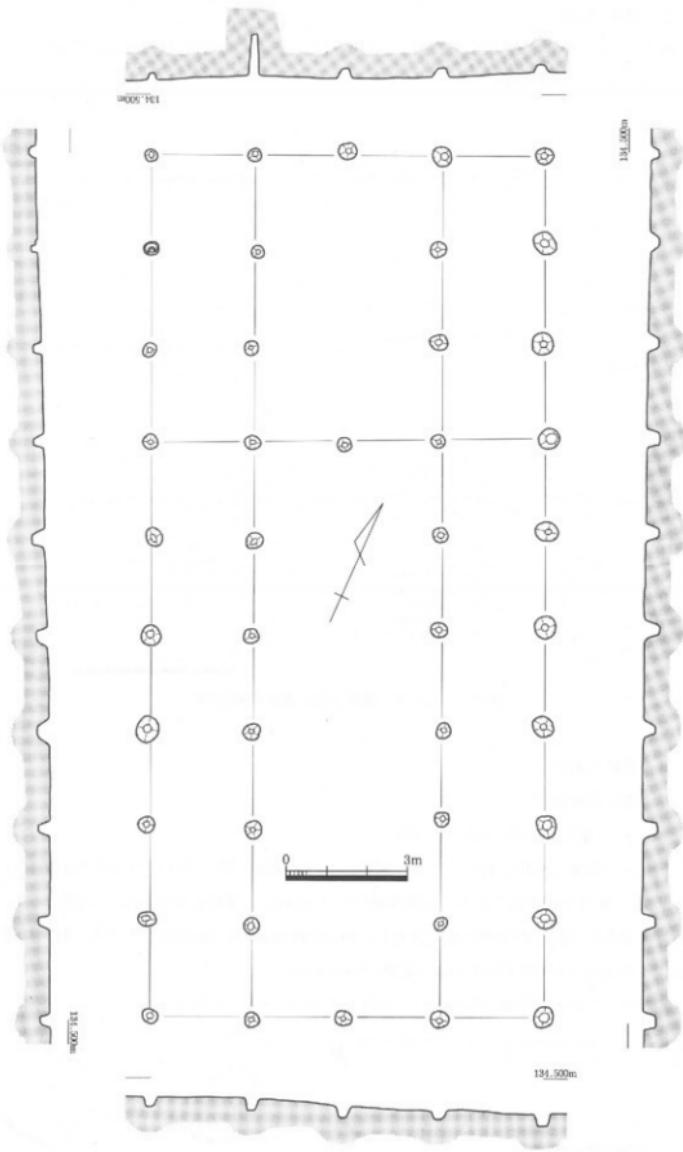
[S B 1] (第20・21図、図版 9・13)

調査区の南東で検出された。桁行9間(21.3m)×梁行2間(4.8m)の両庇で桁行方向はN-24°-Wを示す建物である。柱間は桁行7尺(2.1m)、梁行8尺(2.4m)に計測できる。桁行の北から3間目の中央に柱穴を有し、桁行の両側に幅2.4mの庇を有する。柱穴は確認されず掘方のみで平均径0.5m、深さ0.4mを測る。

遺物は柱穴から須恵器の坏身(2)、黒色土器A類の塊(1)が出土した。



第20図 OSK S B 1・3 出土遺物実測図



第21図 OSK SB1 造構断面実測図(1/120)

[S B 2] (第22図、図版10)

S B 1 の西側 8 m に位置する。桁行 2 間(2.2m) × 梁行 2 間(2.2m)の建物である。北西側柱列には間に柱がある。桁行方向は N - 50° - W を示す。柱穴は平均径 0.3m、深さ 0.1m を測る。

遺物は出土しなかった。

[S B 3] (第20・23図、図版10・13)

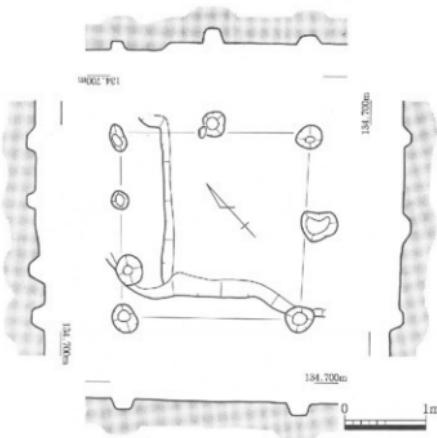
S B 2 の北東側に並ぶように位置する。桁行 2 間(2.7m) × 梁行 2 間(2.2m)の建物である。柱列中央の柱穴の位置は一定していない。桁行方向は N - 40° - E を示す。柱穴は平均径 0.3m、深さ 0.2m を測る。

遺物は柱穴から、瓦器塊(3~5)、土師質皿の細片が出土した。

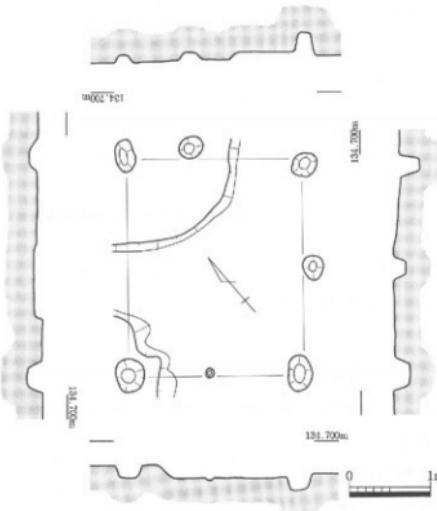
[S B 4] (第24図、図版10)

S B 2 の北西側に並ぶように検出され、北西側の梁行は OS K 9 3 - 1 に広がる。桁行 2 間(5.4m) × 梁行 1 間(3.8m)の建物である。北東側の梁行 1 間は庇のようである。桁行方向は N - 50° - W を示す。柱穴は掘方だけで平均径 0.4m、深さ 0.2m を測る。

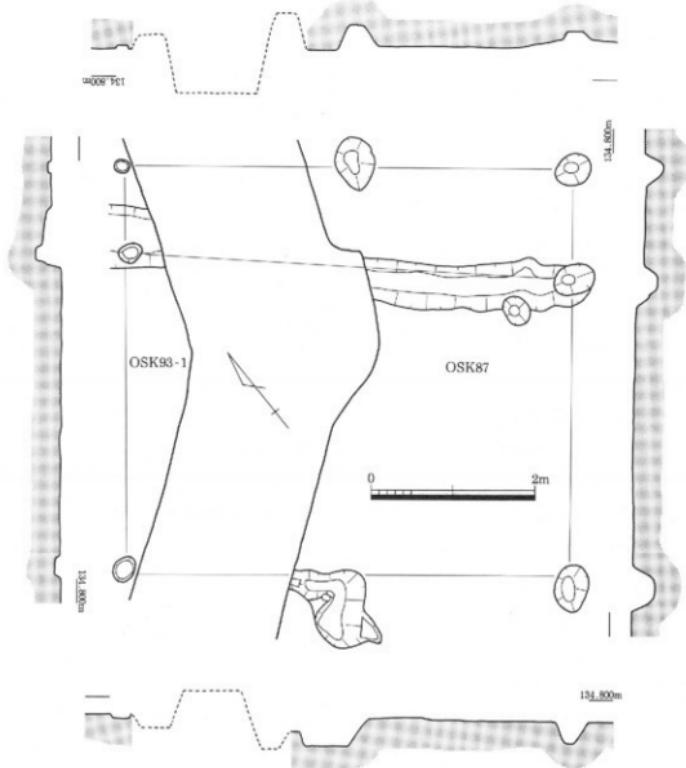
遺物は出土しなかった。



第22図 OS K S B 2 遺構実測図(1/60)



第23図 OS K S B 3 遺構実測図(1/60)



第24図 OSK-SB4遺構実測図(1/60)

## (2) 溝

溝は5条検出された。

### [S D 1]

調査区の南端で検出された。平面形はL字形を呈する。検出長3.5mで北東3mで北西に直角に屈曲する。埋土は灰白色疊混じりシルトの一層である。最大幅0.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

### [S D 2] (図版10)

調査区南側で検出された。溝は西に振りながら南北に走る。埋土は灰白色疊混じりシルトの一層である。検出長9m、最大幅1m、深さ0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

[ S D 3 ]

S X 1 の北側で重複し、S B 4 と同一方向に走る溝である。埋土は上層から褐色疊混じりシルト、にぶい黄橙色疊混じりシルト、にぶい黄橙色疊混じり細砂の順に堆積している。検出長2.5m、最大幅0.8m、深さ0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

[ S D 4 ] ( 第25図、図版13 )

S X 1 の北側1mで検出された。溝は直行しながら調査区外にのびる。埋土は灰黄色疊混じりシルトの一層である。検出長2.5m、最大幅0.9m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿(6)、瓦器塊(7)などが出土した。

[ S D 5 ]

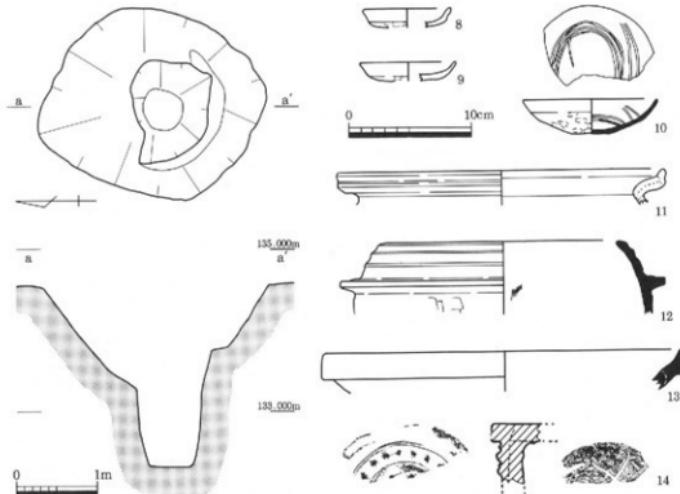
調査区北側で検出された。溝は西に振りながら直行し、調査区外にのびる。埋土は灰白色疊混じりシルトの一層である。検出長7m、最大幅0.7m、深さ0.1mを測る。

遺物は出土しなかった。

(3) 井戸

[ S E 1 ] ( 第26・27図、図版11・13・14 )

S K 1 の北側2mに位置する。平面形が不整円形を呈する、2段の素掘り井戸である。



第26図 OSK SE 1 造構実測図(1/30)

第27図 OSK SE 1 出土遺物実測図

埋土は上層が明褐色系の粘土混じりシルト、下層は褐色粘土混じり細砂層である。規模は長径2.8m、短径2.3m、深さ2.2m、中段での径0.9mを測る。

遺物は井戸内部から土師質皿(8・9)、土師質甕(11)、瓦器塊(10)、瓦質土釜(12)、須恵質練鉢(13)、軒丸瓦(14)の他に甕の体部片、自然木、漆器の漆膜が出土した。

#### (4) 土坑

##### [SK 1] (第28図、図版11)

調査区の南西端、S E 1の南側2mに位置する。平面形は不整形を呈する。主軸方向はN-75°-Wを示す。規模は長軸2.5m、短軸0.7m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器、土師質土器の細片が出土した。

##### [SK 2] (第29図、図版12)

調査区の南側、SK 1

の東側4mに位置する。

平面形は隅丸長方形を呈する。埋土は黄灰色細礫混じりシルトの一層である。主軸方向はN-75°-Wを示す。規模は長軸1.9m、短軸0.7m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器、土師質土器の細片が出土した。

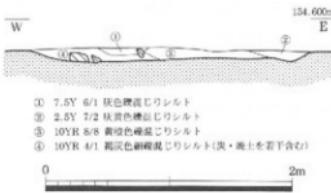
##### [SK 3] (図版12)

S B 3 の北側3mで検出された。平面形は梢円形を呈する。埋土中に炭が混じり、底面は焼成を受けている。規模は長径0.9m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。

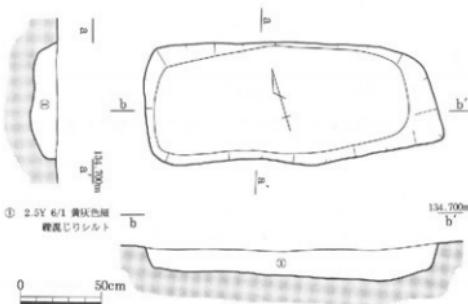
遺物は出土しなかった。

##### [SK 4] (図版13)

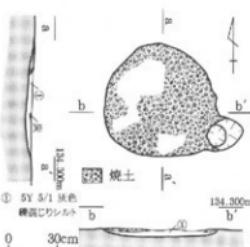
SK 3 の北側6mで検出された。平面形は円形を呈する。埋土は灰色礫混じりシルトの一層である。規模は径0.7m、深さ0.05mを測る。上部は削平され、底面は薄く炭が残存し、約1cmの厚さの粘土が張り付け



第28図 O S K S K 1 遺構断面実測図(1/40)



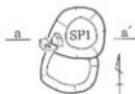
第29図 O S K S K 2 遺構実測図(1/30)



第30図 O S K S K 3 遺構実測図(1/30)

られ焼土となっていた。

遺物は出土しなかった。

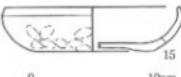


#### (5) 遺物出土ピット

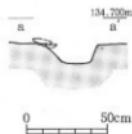
[S P 1] (第31・32図、図版13・14)

S B 1 の西側 2 m で検出された。規模は  
径 0.4m、深さ 0.1m を測る。

遺物は埋土上層より、土師質皿(15)が出  
土した。



第31図 OSK SPI  
出土遺物実測図

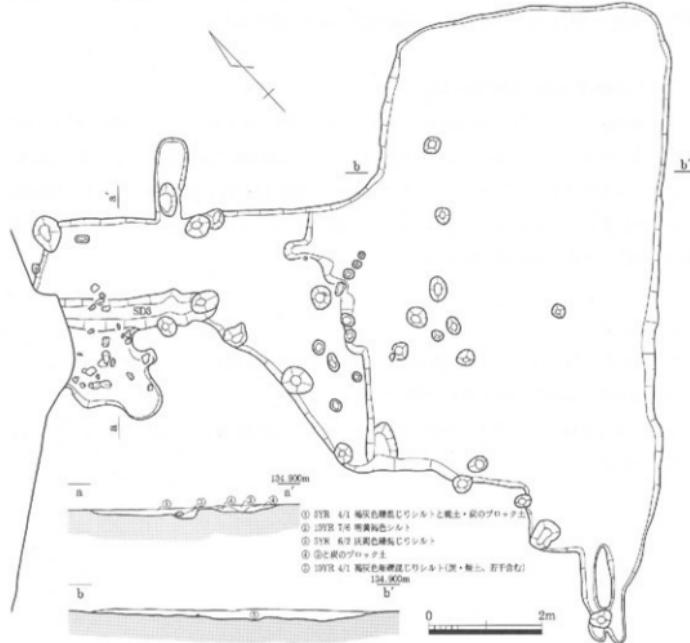


第32図 OSK SPI  
遺構実測図(1/30)

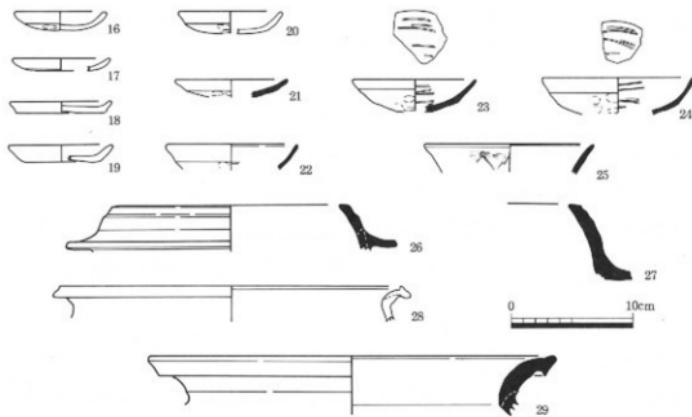
#### (6) その他

[S X 1] (第33・34図、図版10・14)

調査区の西側で検出された。平面形は L 字形を呈する。検出長 11m で北東側最大幅 5.0 m、北西側最小幅 2.0 m で調査区外へのびる。埋土は褐灰色細礫混じりシルトで炭、焼土を含んでいる。深さは 0.2m を測る。



第33図 OSK SX 1 遺構実測図



第34図 OSK SX1出土遺物実測図

遺物は、土師質皿(16~20)、紀州系の土師質土釜(28)、瓦器皿(21)、瓦器塊(22~24)、瓦質土釜(26・27)、瓦質甕片(29)、青磁碗(25)などが出土した。

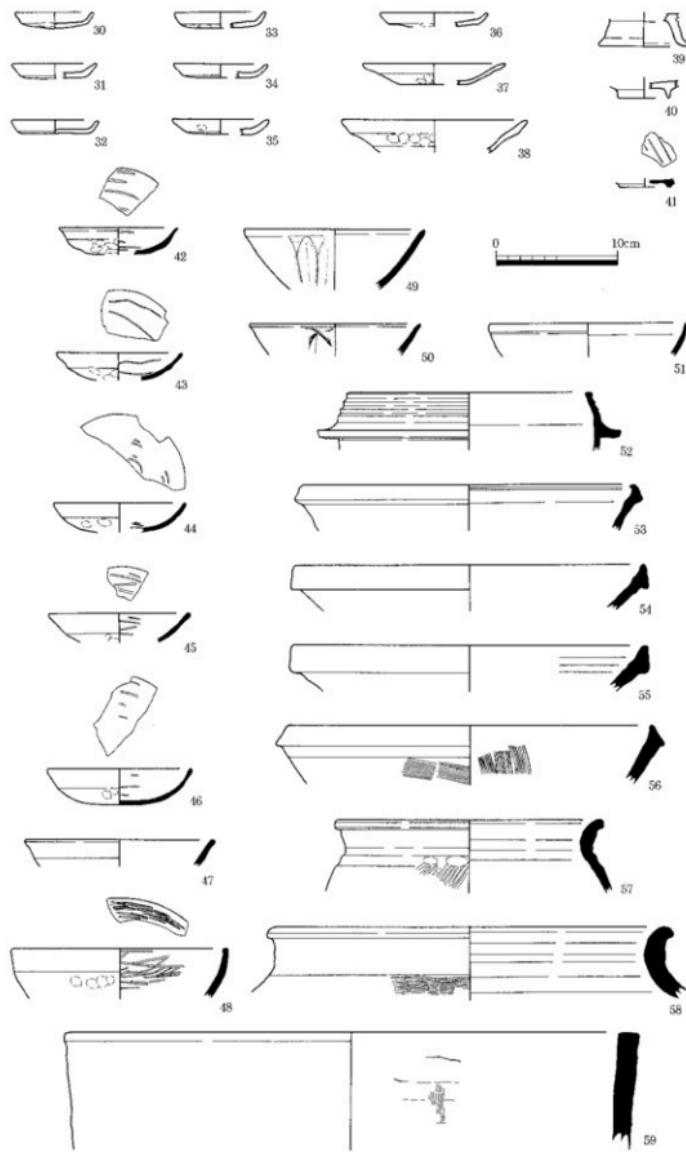
#### (7) 包含層(第35図、図版14・15)

出土遺物はすべて中世土器である。土師質では皿(30~38)があり、うち(30~36)は口径8cm程度の小皿である。また(39)は高台付坏、(40)は坏の高台部分である。瓦器塊は(41~48)で(41・47・48)は高台を有するものである。瓦質土器では(52)が土釜、(56)は擂鉢、(57・58)は甕、(59)は火舎の可能性がある。須恵質では(53~55)が練鉢である。他に青磁碗(49・50)、玉縁の白磁碗(51)が出土した。

#### 4 まとめ

検出されたS B 1は、出土土器から平安時代後期の9間2面の大型の掘立柱建物である。当遺跡の立地と規模からその性格が問題となる。

また、他の遺構は出土遺物から中世である。出土した瓦器塊は尾上編年IV-3で14世紀中葉と思われる。



第35図 O SK 包含層出土遺物実測図

### 第3節 尾崎遺跡(OSK93-1)

#### 1 概略(第36・37図)

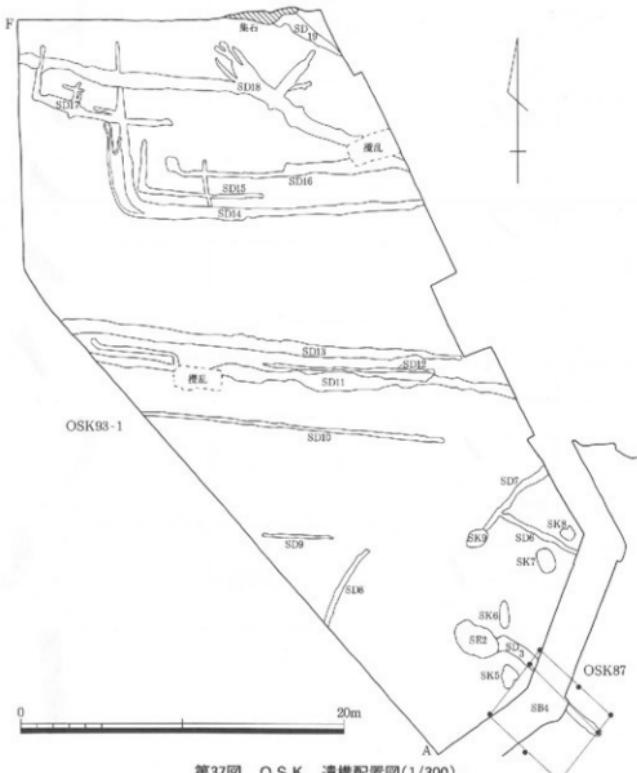
大阪府の東南端の和歌山県との境、紀見峠付近に源を発する石川の支流天見川が、狭小な河谷を刻みながら北流する。この天見川による谷の出口、川の左岸の河岸段丘上、標高135m付近に位置する。

国道371号バイパスの開通により尾崎遺跡でガソリンスタンド建設が計画され、事前調査を行うことになった。調査面積は約750m<sup>2</sup>、実施期間は平成5年4月1日～4月21日である。

当調査地区は南東側で既調査のOSK87と接しており、遺構



第36図 OSK 調査区  
位置図(1/5000)

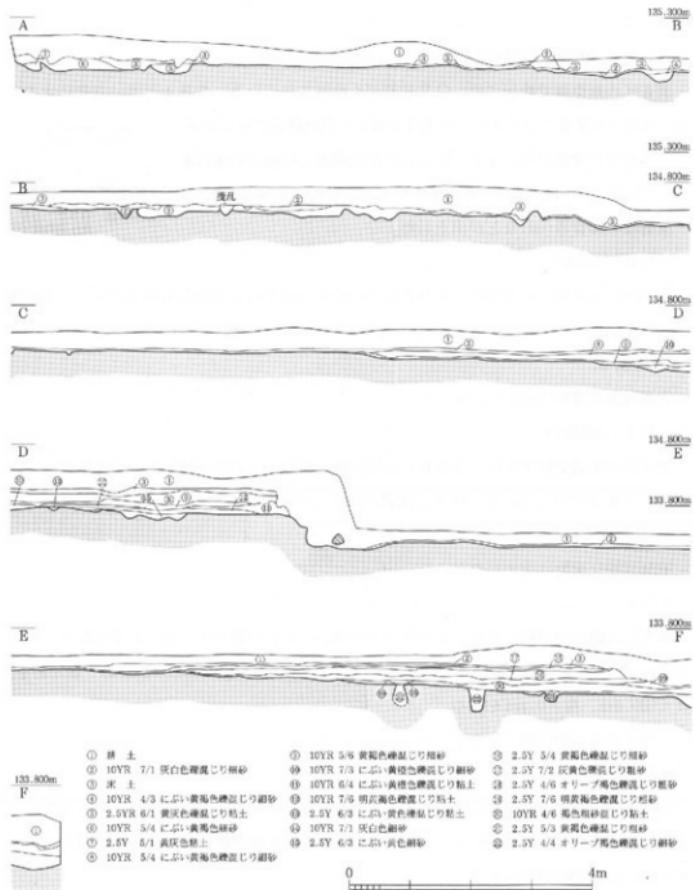


第37図 OSK 遺構配置図(1/300)

には共通するものもある。遺構は南東側の水田下から検出されたO S K87と接するS B 4、S D 3・6~8、S E 2、S K 5~9の一群と北側の水田下で検出された溝を中心とする一群とに分けられる。2つの遺構群は方位等も異なるようである。

## 2 層序(第38図)

調査区のもの地形は北に標高を下げる2枚の水田であった。このことから遺構面の標高も北に向かって高度を下げている。層序は水田の北側が厚く、包含層(にぶい黄色礫混じり粘土・褐色粗砂混じり粘土)も北側で残存していた。



第38図 O S K 西壁土層断面実測図(1/80)

### 3 遺構と遺物

#### (1) 挖立柱建物

##### 〔SB4〕(第24図)

調査区の南側で北西側の梁行が検出され、建物の大部分はOSK87に広がる。桁行2間(5.4m)×梁行1間(3.8m)の建物である。北東側の桁行1間は底のようである。桁行方向N-50°-W。柱穴は掘方だけ平均径0.4m、深さ0.2mを測る。

遺物は出土しなかった。

#### (2) 溝

##### 〔SD3〕(第39図、図版17・18)

調査区の南東側で検出され、OSK87でも検出されている。SB4と同一方向に走る溝で、北端はSE2に合流する。埋土は上層から褐色疊混じりシルト、にぶい黄橙色疊混じりシルト、にぶい黄橙色疊混じり細砂の順に堆積している。検出長3.0m、最大幅0.8m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿(60)などが出土した。



第39図 OSK SD3  
出土遺物実測図

##### 〔SD6〕(図版17)

調査区の南東側で検出され、SD3の北側約6mに平行して約5m検出された。北西端はSD7と直角に交わる。埋土は浅黄色疊混じり細砂の一層である。最大幅0.5m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

##### 〔SD7〕(図版17)

調査区の東側で検出され、SD6とほぼ直角に交わる。約6mにわたって検出され、西南端はSK9に至っている。埋土は浅黄色疊混じり細砂の一層である。最大幅0.6m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

##### 〔SD8〕

調査区の南西側で検出され、SE2の北西側約7mに位置する。溝は北東に振り、検出長は約6mで南西側の調査区外に延びる。埋土はにぶい黄褐色疊混じり細砂の一層である。最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

##### 〔SD9〕

調査区の南西側で検出され、SD8の北西側約2mに位置する。検出長は約4mではほぼ東西に走るが3°程度南に振っている。埋土はにぶい黄褐色疊混じり細砂の一層である。最大幅0.2m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D10 ]

調査区の中央で検出され、S D 9 の北側約 6 mを東西に平行に走る。検出長は約19mである。西端は調査区外にのびる。埋土はにぶい黄褐色疊混じり微砂の一層である。最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D11 ]

調査区の中央で検出され、S D10の北側の約 3 mを東西に平行に走る。検出長は約26mである。埋土は明黄褐色疊混じり粘土の一層である。最大幅1.3m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D12 ]

調査区の中央で検出され、S D11の北側に接するように東西に平行に走る。検出長は約10mである。埋土は明黄褐色疊混じり粘土の一層である。最大幅0.3m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D13 ]

調査区の中央で検出され、S D12の北側約 1 mを東西に平行に走る。検出長は約25mである。埋土は明黄褐色疊混じり粘土の一層である。最大幅0.9m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D14 ]

調査区の北側で検出され、S D13の北側約 7 mに位置する。溝は平面形がL字形を呈し、東側調査区外から西に18m走ったのち、北に屈曲し10m走る。S D17、S D18と一部重複する。検出長は約28mである。埋土はにぶい黄褐色疊細砂の一層である。最大幅0.9m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D15 ]

調査区の北側で検出され、S D14の北側約 1 mに位置する。溝は平面形がL字形を呈し、東西に 8 m走ったのち北に屈曲し 3 m走る。検出長は約11mである。埋土はにぶい黄褐色疊混じり細砂の一層である。最大幅0.4m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D16 ]

調査区の北側で検出され、S D15の北側約 1 mに位置する。溝は東側調査区外から西に15m走ったのち、北西に 1 m屈曲し走る。検出長は約16mである。埋土はにぶい明黄褐色疊混じり細砂の一層である。最大幅1.0m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D17 ]

調査区の北西側で検出され、S D14、S D18と重複する。溝は東西に 9 m走ったのち、

北に屈曲し4m走る。検出長は約13mである。埋土はにぶい黄褐色疊混じり細砂の一層である。最大幅0.7m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D18 ]

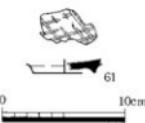
調査区の北側で検出され、S D14、S D17と重複する。溝は西側調査区外から東に18m走る溝と東側調査区外から北西方向に14m走る溝が重複したものであるが前後関係は不明である。埋土はオリーブ褐色粗砂とにぶい黄褐色疊混じり細砂である。最大幅1.5m、深さ0.2mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D19 ] (第40図、図版18)

調査区の北東側で検出され、S D18の北側約4mに位置する。溝は北側調査区外から南東方向に4m走る。埋土はにぶい黄褐色疊混じり粘土である。最大幅1.0m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器塊底部(61)が出土した。



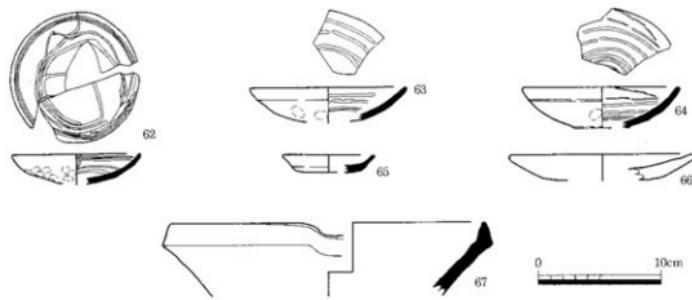
第40図 OSK SD19  
出土遺物実測図

#### (3) 井戸

##### [ S E 2 ] (第41図、図版17・18)

調査区の南東側で検出され、S B 4 の北西側2mに位置する。平面形は長椭円形を呈する、素掘りの井戸である。規模は長径3.0m、短径1.9m、深さ2.5mを測る。

遺物は瓦器塊(62～64)、瓦質皿(65)、土師質皿(66)、須恵質片口練鉢(67)が出土した。

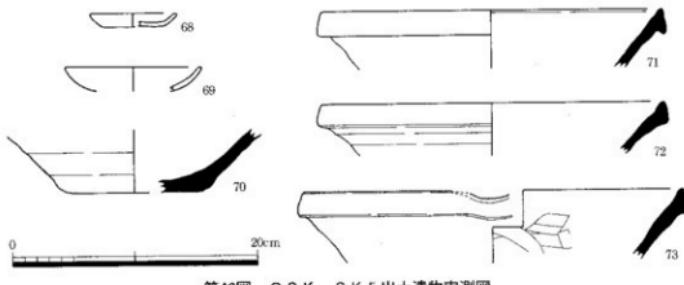


第41図 OSK SE2 出土遺物実測図

#### (4) 土坑

##### [ S K 5 ] (第42図、図版18)

調査区の南側、S B 4 の北西側梁行に接して検出された。平面形は不定形な長椭円形を呈する。埋土は褐色疊混じり細砂で炭化物を含んでいる。規模は長径0.7m、短径0.3m、



第42図 O SK SK 5出土遺物実測図

深さ0.1mを測る。

遺物は土師質皿(68・69)、須恵質鍊鉢(70~72)・片口鍊鉢(73)が出土した。

#### [SK 6]

調査区の南側、SK 5の北側4mに位置する。平面形は長楕円形を呈する。埋土は浅黄色疊混じりシルトの一層である。主軸方向はN-4°-Wを示す。規模は長径1.7m、短径0.6m、深さ0.3mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [SK 7] (図版17)

調査区の南東端、SD 6の南側1mに位置する。平面形は椭円形を呈する。埋土は浅黄色疊混じり細砂の一層である。主軸方向はN-21°-Wを示す。規模は長径1.5m、短径1.0m、深さ0.3mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [SK 8]

調査区の南東端、SD 6の北側1mに位置する。平面形は不整形を呈する。埋土は浅黄色疊混じり細砂の一層である。主軸方向はN-60°-Wを示す。規模は長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.3mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

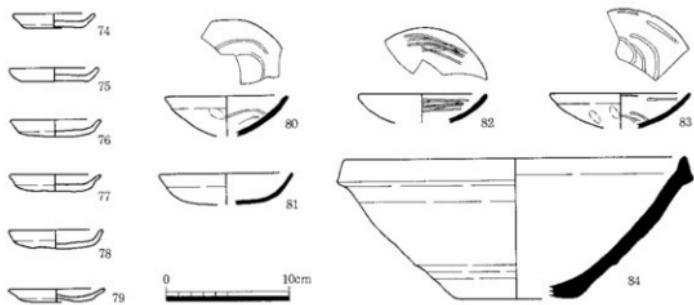
#### [SK 9] (図版17)

調査区の南東端、SD 7の南西端に位置する。平面形は不定形な椭円形を呈する。埋土は浅黄色疊混じり細砂の一層である。主軸方向はN-50°-Eを示す。規模は長径1.5m、短径1.0m、深さ0.1mを測る。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### (5) 包含層(第43図、図版18)

包含層からは中世土器を中心に出土した。土師質皿(74~79)はいずれも口縁部は底部から短く外傾する。瓦器塊(80~83)は(81)を除き暗文を有するものである。(84)は須恵質の



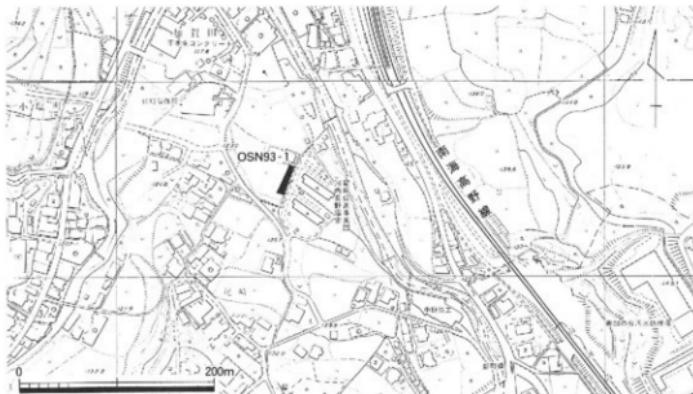
第43図 O S K 包含層出土遺物実測図

練鉢である。

#### 4 まとめ

調査の結果、S D 8 から南東側の遺構群から出土する瓦器塊は尾上編年IV-3~5に該当する14世紀後半を中心とするものである。しかし S D 9 以降の溝群は方位を異にし、少ない出土の瓦器塊からではあるが、S D 8 から南東側の遺構群とは時期も異にし、やや遡るようである。

#### 第4節 尾崎北遺跡(OSN93-1)



第44図 OSN 調査区位置図(1/5000)

##### 1 概略(第44・45図)

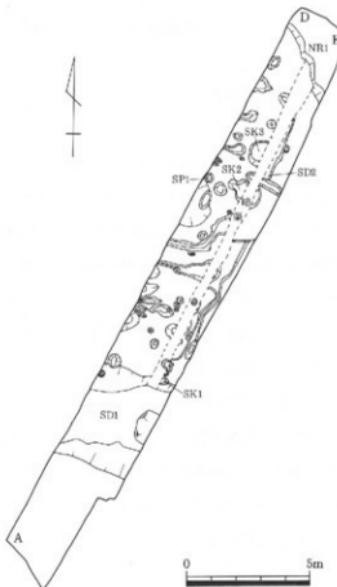
調査地は天見川による谷の出口、川の左岸の河岸段丘上、標高120m付近に位置する。

調査は国道371号線バイパス工事によって発見された尾崎遺跡の近くで倉庫建築が計画されたことに伴って実施された。調査面積85m<sup>2</sup>、実施期間は平成5年7月26日～8月13日である。

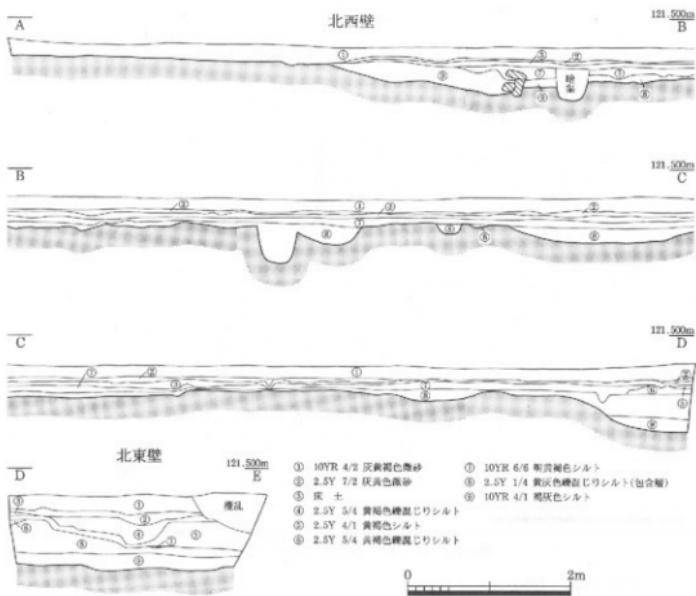
##### 2 層序(第46図)

当調査区は東に振った南北に細長いもので、南西端5m付近から北東端に向かって標高を下げ、北東端近くで更に谷状を呈する。

この為、層厚は北東端に向かって厚くなっている。埋土は河川堆積の極細砂とシルトの互層を成し、包含層は疊混じりシルトである。



第45図 OSN 遺構配置図(1/200)



第46図 O S N 北西壁・北東壁土層断面実測図(1/60)

### 3 遺構と遺物

#### (1) 溝

[SD 1] (第47・49図、図版19・20)

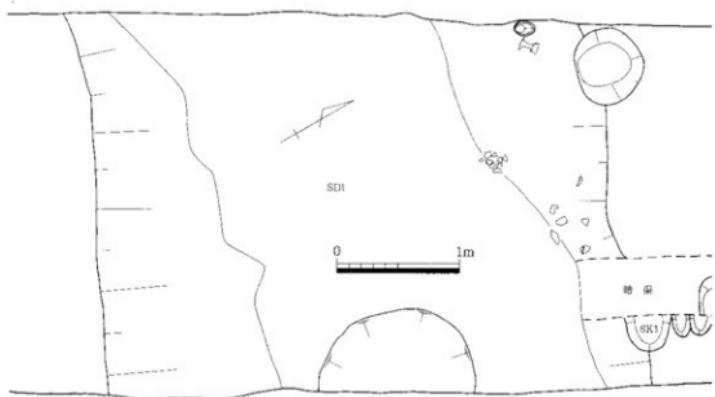
調査区の南側で検出された調査区を横断する溝である。検出幅が4.0mと広く、深さは0.4mを測った。埋土は明黄褐色シルトと褐灰色シルトからなる。溝の北側肩部付近から土師器の高杯や甕が出土した。尚、この溝より南側からは遺構は確認されなかった為、遺跡を画する溝の可能性がある。

遺物は土師器の高杯(4)・杯部(1)・脚部(2・3)・甕口縁部(5~7)、須恵器の杯蓋(8)、更に製塙土器脚部(9)が出土した。

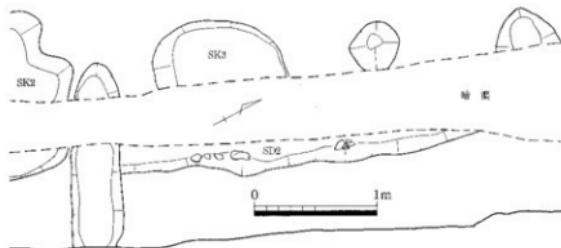
[SD 2] (第48・49図、図版21)

調査区の北側で検出された。調査区を縦断する後世の擾乱の為、全容は不明である。検出長は約3mで西側肩部は削平されている。残存幅0.3m、深さ0.1mを測る。溝の東側肩部付近から中世土器が出土した。

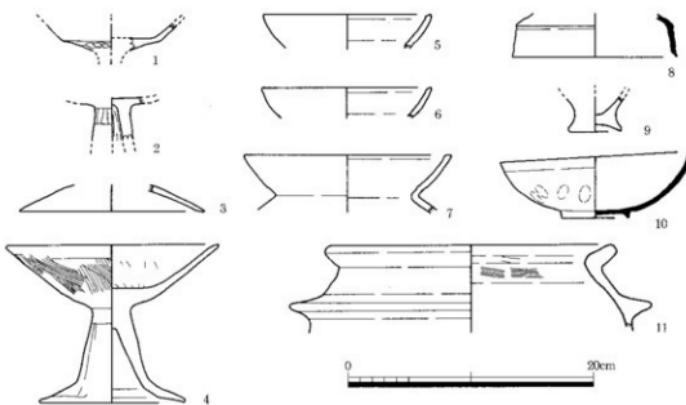
遺物は瓦器甕(10)、土師質土釜(11)が出土した。



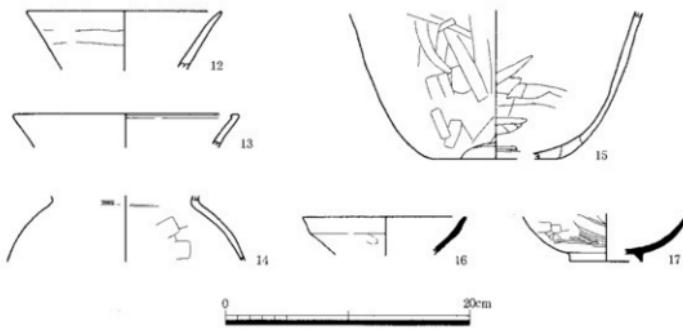
第47図 O S N SD 1 遺構実測図(1/40)



第48図 O S N SD 2 遺構実測図(1/40)



第49図 O S N SD 1 + 2 出土遺物実測図



第50図 OSN SK 1~3 出土遺物実測図

### (2) 土坑

#### [SK 1] (第50図、図版21)

調査区の南側、SD 1の北側肩部で検出された。大半は後世の攪乱で削平され全容は判明しないが、平面形は梢円形を呈する。規模は残存長径0.4m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。

遺物は土師器の壺口縁部(12)、甕口縁部(13)、甕体部(14)、瓶(15)が出土した。

#### [SK 2] (第50図、図版21)

調査区の北側、SD 1から北に約8mに位置する。土坑の中央は後世の攪乱で削平されている。平面形は不定形な梢円形を呈する。主軸方向はN-53°-Wを示す。規模は残存長径1.4m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。

遺物は瓦器塊(16)が出土した。

#### [SK 3] (第50図、図版21)

調査区の北側、SK 2から北に約1mに位置する。土坑の東側は後世の攪乱で削平されている。平面形は不定形な梢円形を呈する。規模は残存長径1.1m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器塊(17)が出土した。

### (3) 遺物出土ピット

調査範囲が狭く建物を復元するまでには至っていないが、遺物を伴うピットが検出されている。

#### [SP 1] (第51図、図版21)

調査区の北側、SK 2から西に約1mに位置する。平面形は梢円形を呈する。規模は残存長径0.4m、短径0.3m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器皿(18)、瓦器塊(19・20)が出土した。



18



19



20



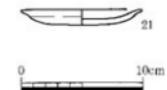
第51図 O S N S P I  
出土遺物実測図

#### (4) 自然流路

[N R 1] (第52図、図版21)

調査区の北側端で南西側の肩部が検出された。流路は北西に振るようである。埋土はシルト層が主で一部礫が混じる。規模は深さ0.9mを測る。

遺物は中世土器が主体である。土師質皿(21)、土師質壺(22)、土師質塊(23)、瓦器塊(24~29)、土師質土釜(30)などが出土した。



21



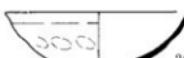
22



23



24



25



26



27



28



29



第52図 O S N N R 1 出土遺物実測図

#### (5) 包含層(第53図、図版21)

包含層の出土遺物で実測できたのは須恵器が主体で壺蓋(31)、壺脚部(32)、甕(33)である。これら以外に110gの鉄滓、中世土器、輸入陶磁器の破片が出土した。



31



32



33



第53図 O S N 包含層出土遺物実測図

## 4 まとめ

当遺跡はジョウノマエ・尾崎遺跡とは距離的に少し離れ、出土遺物から時期も相違する。

なによりも古墳時代中期の遺構・遺物が出土している。土師器では布留式IIIの甕・高坏が出土している。須恵器は少し時期が下がるようである。中世の出土土器は瓦器焼から尾上編年III-1・2の時期で、ジョウノマエ遺跡とほぼ同時期のようである。

## 第5節 菱子尻遺跡(HSK90-2)

### 1 概略(第54・55図)

調査地は南海電鉄千代田駅の北側約300m、塩谷川が東側を流れる標高116mの小丘陵の末端部に位置する。

当遺跡の既往の調査は当調査地の南側約100mのボーリング場の建設時の事前調査だけである。この時は位置的に谷の部分であったことから、縄文・弥生・中世の遺物を若干出土しただけであった。この為当遺跡についての全容は把握されていない。

今回の調査地は、明治時代まで木戸



第54図 HSK 調査区位置図(1/5000)



第55図 HSK 遺構配置図(1/300)

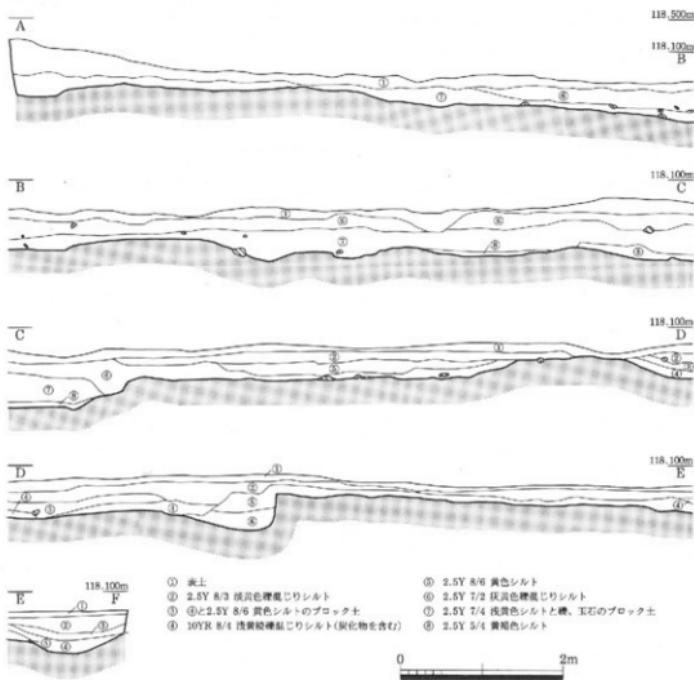
神社と神宮寺の大仙院が所在した場所であり、近世の遺構が存在する可能性があった。

調査は共同住宅建設に伴うもので調査面積約1000m<sup>2</sup>、実施期間は平成2年7月23日～8月31日である。

調査の結果、遺構の大部分は多数の不定形な土坑状の落ち込みで、性格の不明なものが多い。直線に走る溝が2条あり、他に遺物を伴う土坑状の遺構が検出された。

## 2 層序(第56図)

遺構は表土下約0.3～0.6mの地山面から検出された。表土から地山までの層厚は、丘陵上であることから平均的に薄い。



第56図 H S K 南西壁土層断面実測図(1/60)

## 3 遺構と遺物

### (1) 溝

#### [S D 1]

調査区の南西側邊の中央で検出され、調査区外からN-60°-Eの方向に真っすぐ走る。

検出長は17.5m、最大幅0.9m、深さ0.1mを測る。埋土は単層で明黄色疊混じりシルトであった。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### [ S D 2 ] (図版23)

調査区の南西側辺の北側で検出された。S D 1 の北側約16mを平行するように西側調査区外からN-60°-Eの方向に走る。検出長20.5m、最大幅0.9m、深さ0.2mを測る。埋土は上層がにぶい黄色疊混じりシルトであった。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### (2) 土坑

##### [ S K 1 ] (第58図、図版24)

調査区の南東側辺に位置し、一端は調査区外に広がる。平面形は不定形な椭円形を呈する。規模は長径2.3m、短径1.6m、深さ0.3mを測る。主軸方向はN-27°-Wを示す。

遺物は白磁の仏飯具(5)が図示できた。

##### [ S K 2 ] (第58図、図版24)

調査区の南側、S K 1 の北西約6mに位置しS X 2 と重複する。平面形は不定形な椭円形を呈する。規模は長径0.8m、短径0.7m、深さ0.2mを測る。主軸方向はN-70°-Wを示す。

遺物は16弁の菊弁の軒丸瓦(6)が図示でき  
た。

##### [ S K 3 ] (第57・58図、図版24)

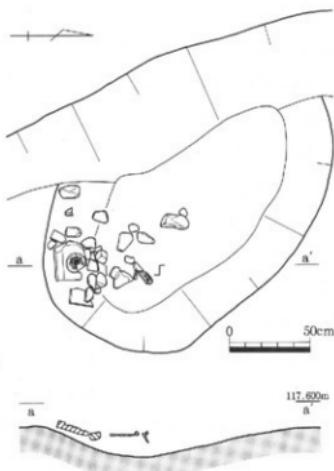
調査区の中央部、S D 1 の北約7mに位置  
しS X 3 と重複する。平面形は不定形な椭円  
形を呈する。規模は長径2.0m、短径1.3m、  
深さ0.2mを測る。主軸方向はN-45°-Wを  
示す。

遺物は土坑内から川原石と瓦類が出土し、  
輪宝文の面戸瓦(7)が図示できた。

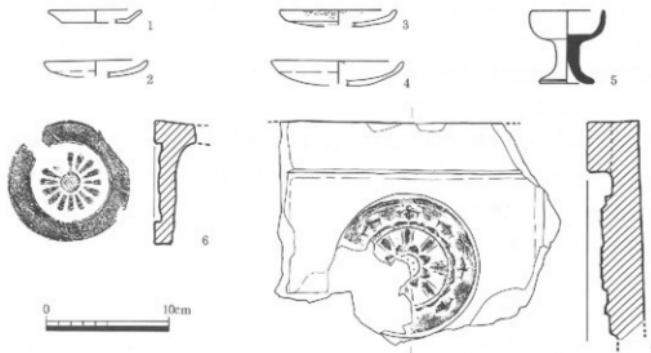
##### [ S K 4 ] (第58図、図版24)

調査区の北側、S X 3 の北西端に接して検  
出された。平面形は不定形な椭円形を呈する。  
規模は長径1.8m、短径1.4m、深さ0.2mを  
測る。主軸方向はN-59°-Eを示す。

遺物は土師質皿(1~4)が図示できた。



第57図 H S K S K 3 遺構実測図(1/30)



第58図 HS K SX 1~4 出土遺物実測図

### (3) その他

[SX 1] (第61図、図版24)

調査区の南端、SX 1の西側約3mに位置する。平面形は不定形を呈する。規模は長軸6.3m、短軸2.5m、深さ0.3mを測る。

土坑内から出土した銅鏡の寛永通寶(17)が図示できた。

[SX 2] (第59・61図、図版24)

調査区の南端、SX 1の北側約2mに位置する。平面形が不定形な落ち込みで南西側調査区外に広がる。規模は検出長軸11.2m、短軸4.3m、深さ0.4mを測る。埋土は5層から成る。

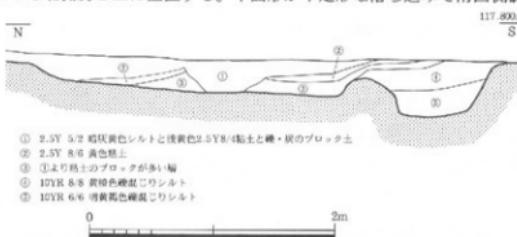
遺構内からは瓦類が出土し、軒丸瓦

(14)、軒平瓦(15・16)が図示できた。

[SX 3] (第60・61図、図版24)

調査区の中央部に位置し、北西端がSK 4に接する。平面形は溝状の長楕円形を呈する。規模は長軸11.9m、短軸2.3m、深さ0.16mを測る。埋土は2層から成る。上層は浅黄色疊混じりシルト、下層は黄色粘土と明黄褐色シルトのブロック土である。

遺構内から出土した土師質皿(11)、土師質灯明皿(12)、陶器



第59図 HS K SX 2 遺構断面実測図(1/40)



第60図 HS K SX 3 遺構断面実測図(1/40)



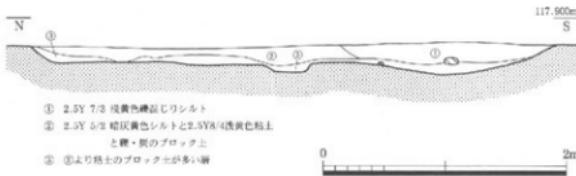
第61図 HS K SX 1~4 出土遺物実測図

の皿(13)が図示できた。

[SX 4] (第61・62図、図版24)

調査区の南側辺中央部で検出され、西側調査区外に広がる。平面形は不定形を呈する。規模は検出長軸11.6m、短軸3.1m、深さ0.2mを測る。埋土は3層から成り、上層は浅黄色疊混じリシルト、中層は暗灰黄色シルトと浅黄色粘土と疊・炭のブロック土、下層は中層より粘土のブロックが多い層である。

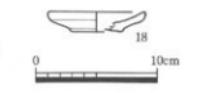
遺構内から出土した土師質皿(8~10)が図示できた。



第62図 HS K SX 4 遺構断面実測図(1/40)

(4) 包含層(第63図、図版24)

包含層からの出土土器は、破片が多く実測できたものは少なかった。この為、図示できたのは土師質の皿(18)のみである。



第63図 HS K 包含層出土遺物実測図

#### 4 まとめ

調査地付近は、前述のとおり旧木戸神社とその神宮寺と思われる正雲寺大仙院の跡地である。調査地は小字名と神社跡地との位置関係から、この正雲寺大仙院の跡地に比定される。

正雲寺大仙院は明治23年に松ヶ丘中町の松林寺に合併されている。元禄5年(1692)の寺社改帳によれば「正雲寺 大仙院 柱行7間半 梁行4間 屋根 葉葺 四方庇 瓦

造」の規模をもっていた。この寺は、慶安2年(1649)に寺ヶ池の改修と新田の開発をしたこの地の中村祐和大仙が出家して建立したものと伝えられている。

本調査では、上記寺院に対応する遺構の明確な性格を確認するまでには至っていない。近世社寺の調査は今後の課題である。

## 第6節 市町東遺跡( I C H 90-1 )



第64図 I C H 調査区位置図(1/5000)

### 1 概略(第64・65図)

調査地は市町の石川の左岸の中位段丘面上、標高105mに位置する。

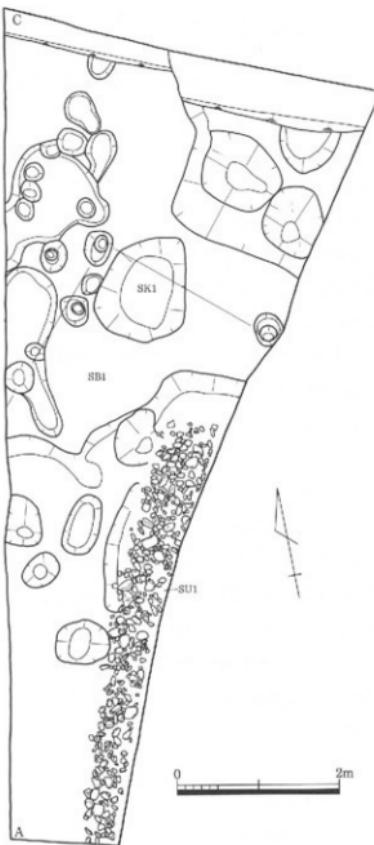
遺跡は平成2年5月の試掘調査で発見された。

本調査は、共同住宅の建設に先立ち平成2年9月3日～9月20日に実施した。行政上では市町397番地で、調査面積は30m<sup>2</sup>である。

今回は面積も少なく全容の判明するものは少なかったが、柱穴状のピット、土坑、更に集石遺構が見られた。柱穴状のピットは一部直角に繋がり建物になる可能性がある。

土坑内からは中世の土器が出土し、集石遺構も同様の土器が出土した。

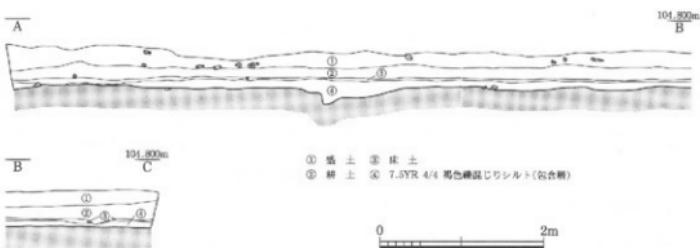
また、柱穴状のピットからは、土器の出土ではなく時代は確定できなかった。しかし包含層中からは弥生時代の甕・壺などの土器の一部が出土し、更に石器(石包丁・不定形石器)も出土していることから、弥生時代中期の可能性もある。



第65図 I C H 遺構配置図(1/60)

## 2 層序(第66図)

調査区は宅地で、上層から現代の盛土、旧耕土、床土、そして包含層である褐色疊混じりシルトの層順となっていた。



第66図 ICH 南西壁土層断面実測図(1/60)

## 3 遺構と遺物

### (1) 挖立柱建物

#### [SB1] (第67図)

調査区の中央で一部検出された。桁行1間(2.3m)以上×梁行1間(1.9m)以上の建物である。桁行方向はN-50°-Wを示す。柱穴の掘方は橢円形で、長径0.4m、短径0.3m、深さ0.14mを測る。

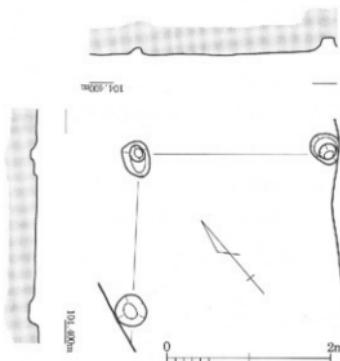
遺物は出土しなかった。

### (2) 土坑

#### [SK1] (第68図、図版25・26)

調査区中央でSB1と重複する。平面形はやや不定形な長椭円形を呈する。主軸方向はN-32°-Eを示す。規模は長径1.4m、短径1.1m、深さ0.2mを測る。

遺物は土師質皿(1・2)、土師質塊(3)が実測できた。



第67図 ICH SB1 遺構実測図(1/60)



第68図 ICH SK1 出土遺物実測図

### (3) 集石遺構

#### [SU1] (図版26)

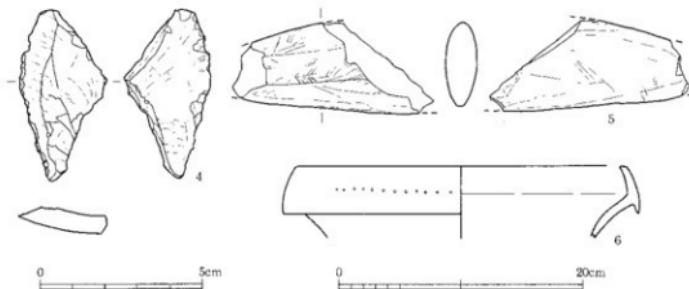
調査区の東側壁に沿って検出された。遺構は検出長約5m、検出幅は0.7mでその範囲

に最大径21cm×12cm×4cm、最小径2cm×1cm×1cmを測る玉石が數かれたように詰まっていた。主軸方向はN-26°-Eを示す。

実測可能な遺物は出土しなかった。

#### (4) 包含層（第69図、図版26）

中世土器や弥生土器の破片が小量出土した。遺物はサヌカイト製削器(4)、石包丁(5)、弥生時代中期壺口縁部(6)が実測できた。



第69図 ICH 包含層出土遺物実測図

#### 4まとめ

市町東遺跡は、調査の結果から、弥生時代から中世にかけての複合遺跡である可能性が高い。特に弥生時代の中期の遺跡は市内では塩谷遺跡と三日市遺跡しかなく、出土した土器が中期でも中頃のものであり、石川流域の弥生時代の遺跡としては重要な位置を占めると考えられる。

また、SU1は中世以降の可能性が高く、調査地の東側に接して走る東高野街道との関係が予想される。遺跡の範囲も市町の所在するこの台地一帯に広がる可能性が高い。

# 報告書抄録

ふりがな	じょうのまえいせき	おさきいせき	おさきたいせき	かしこじいせき	いちょうひがいせき
書名	ジョウノマエ遺跡	尾崎遺跡	尾崎北遺跡	菱子尻遺跡	市町東遺跡
副書名	河内長野市遺跡調査会報 XIII				
シリーズ名	河内長野市遺跡調査会報				
シリーズ番号	XIII				
編著者名	尾谷雅彦				
編集機関	河内長野市遺跡調査会				
所在地	〒586 大阪府河内長野市原町396-3	TEL 0721-53-1111			
発行年月日	1996年3月30日				

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
ジョウノマエ遺跡	河内長野市加賀田	27216	府120 河 91	34°25'25" 135°34'25'	1988.04.26 ↓ 1988.05.24	950m <sup>2</sup>	国道371号線バイパス工事に伴う事前調査	
尾崎遺跡	河内長野市加賀田	27216	府119 河 90	34°25'29" 135°34'22' ↓ 34°25'30" 135°34'21'	1987.12.02 ↓ 1987.12.25 ↓ 1993.04.01 ↓ 1993.04.21	950m <sup>2</sup> 750m <sup>2</sup>	国道371号線バイバス工事に伴う事前調査 ガソリンスタンド建設に伴う事前調査	
尾崎北遺跡	河内長野市加賀田	27216	府127 河 98	34°25'37" 135°34'19'	1993.07.26 ↓ 1993.08.13	85m <sup>2</sup>	倉庫建設に伴う事前調査	
菱子尻遺跡	河内長野市木戸町	27216	府 65 河 54	34°28'03" 135°34'06'	1990.07.23 ↓ 1990.08.31	1000m <sup>2</sup>	共同住宅建設に伴う事前調査	
市町東遺跡	河内長野市市町	27216	府125 河 96	34°27'45" 135°34'51'	1990.09.03 ↓ 1990.09.20	30m <sup>2</sup>	共同住宅建設に伴う事前調査	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ジョウノマエ遺跡	城館	中世	掘立柱建物 溝 井戸	2 10 2	瓦器 土師質土器
尾崎遺跡	集落	古墳 中世	掘立柱建物 溝 井戸	4 5 1	瓦器 瓦質土器 土師質土器 須恵質土器
			溝 井戸	14 1	瓦器 土師質土器 須恵質土器
尾崎北遺跡	散布地	古墳	溝	2	土師器 須恵器 瓦器 土師質土器
菱子尻遺跡	散布地	繩文 中世	溝	2	土師質土器 白磁 銅錢 瓦
市町東遺跡	散布地	弥生 中世	掘立柱建物 集石遺溝	1 1	弥生土器 石器 土師質土器

# 図 版



第 1・2 調査区全景 (真上から)



第 1 調査区全景 (北から)

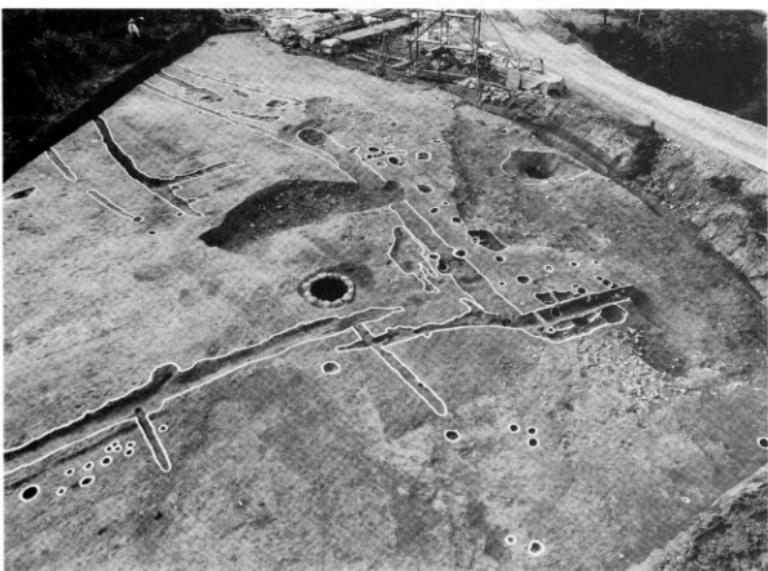


全景（南から）



S B 1 (西から)

図版3 遺構 ジョウノマ工遺跡 (J N M 88) 第2調査区



全景（南東から）

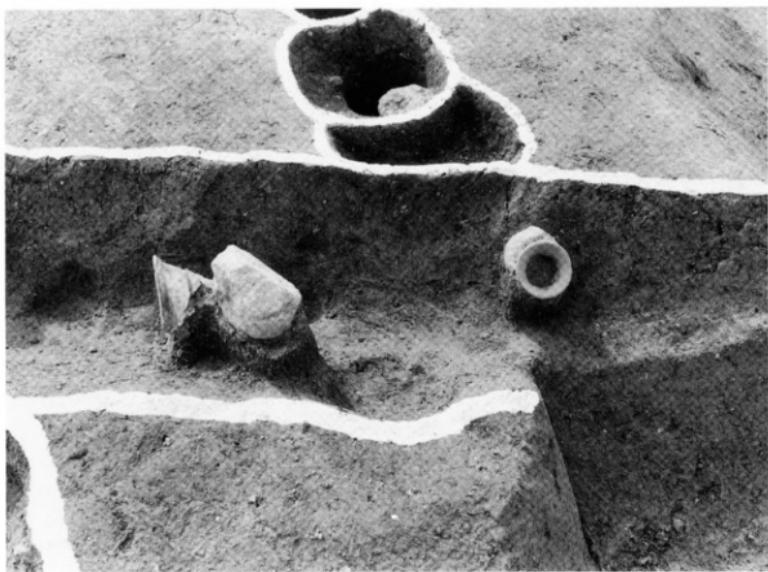


全景（西から）

図版4 遺構 ジョウノマ工遺跡 (J N M 88) 第2調査区



S E 3 (西から)



S D10 (北から)



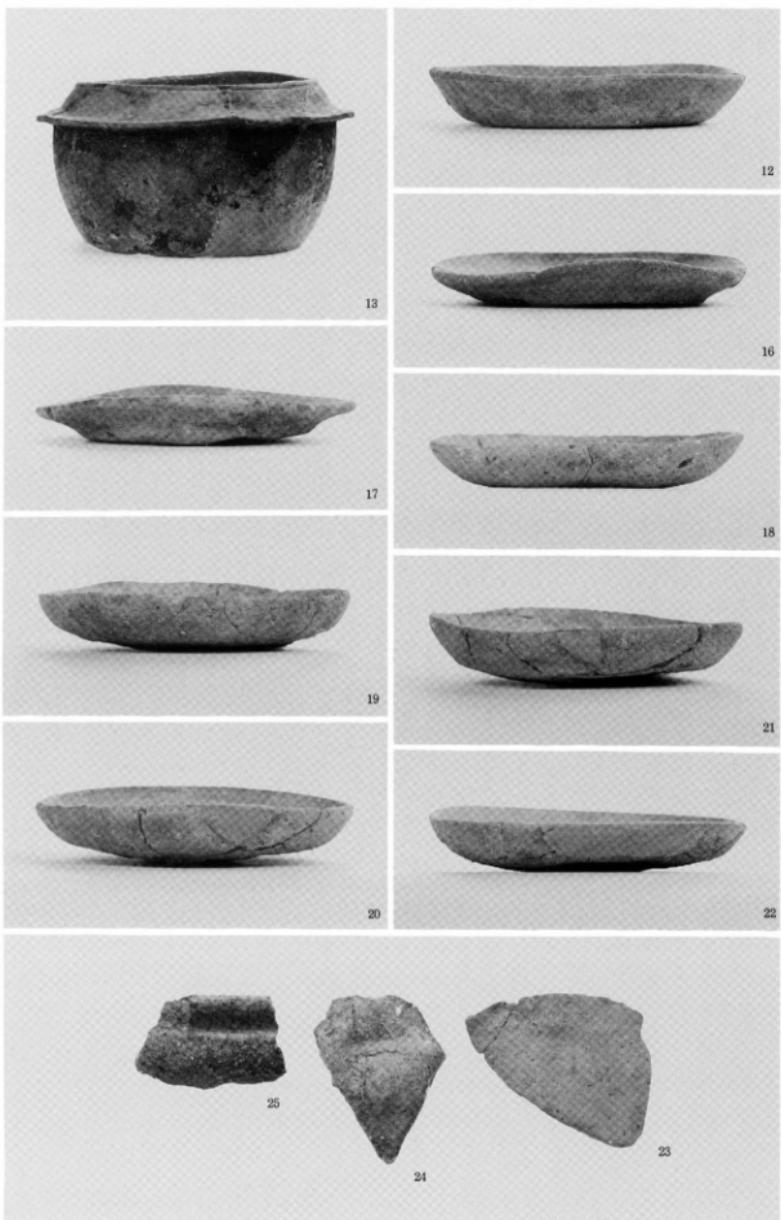
S K 3 (北から)



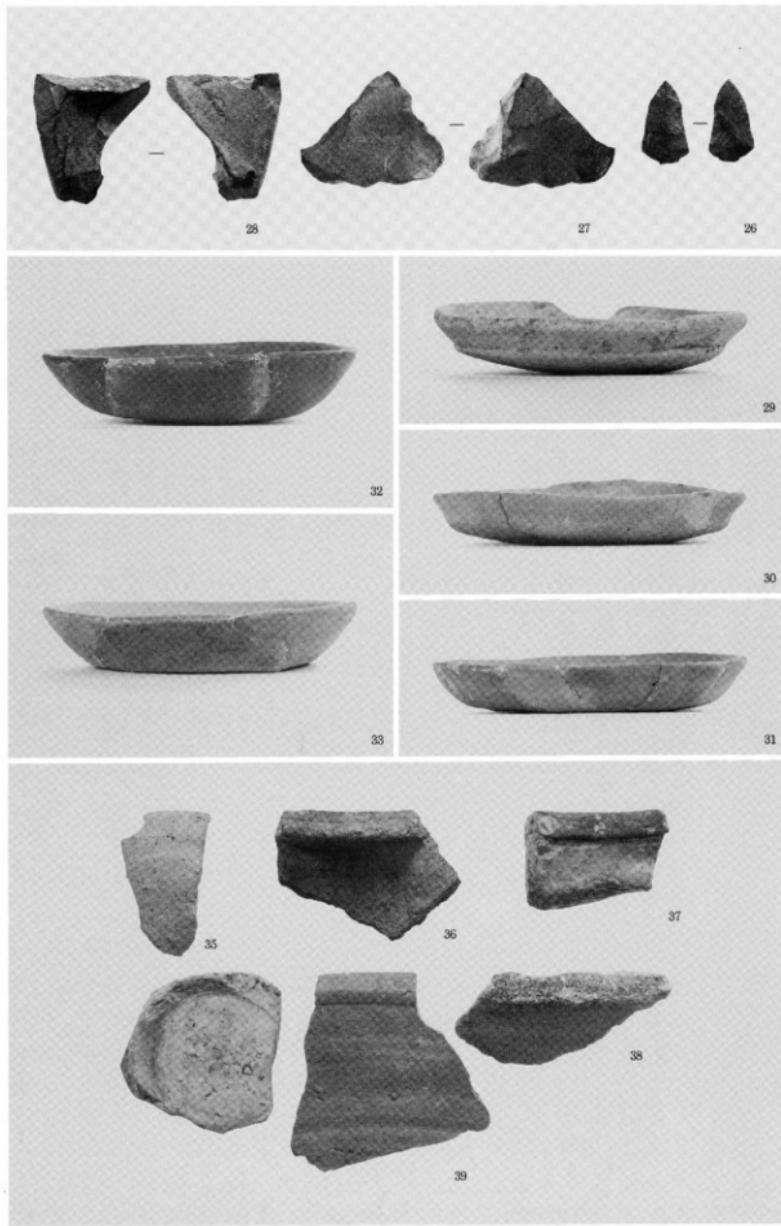
S K 4 (西から)



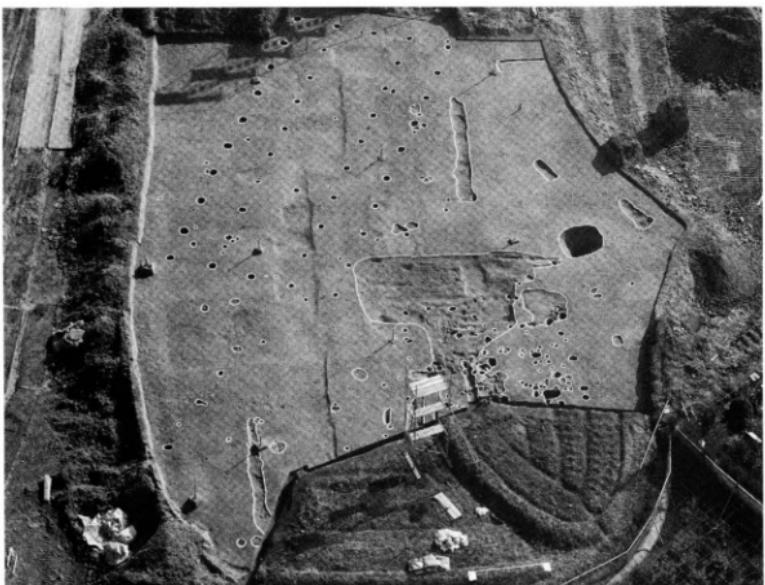
SB (1)、SD8 (4)、SD9 (2・6)、SD10 (3・5・7~11)



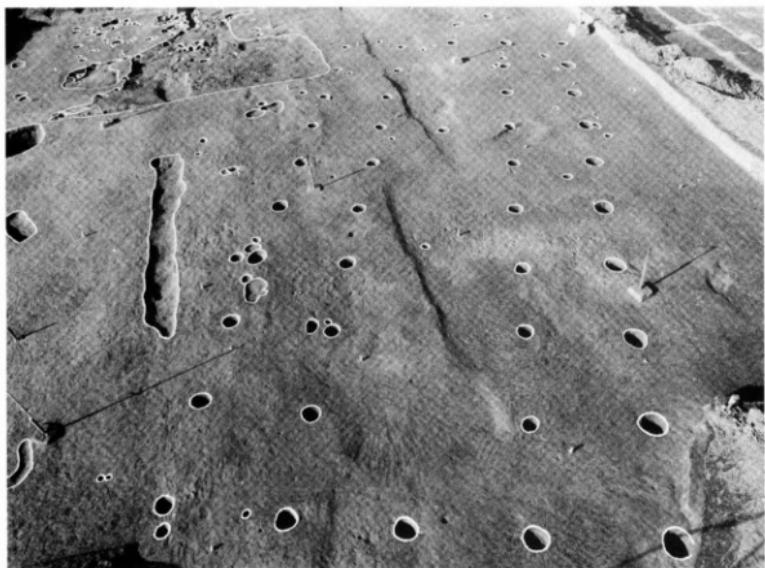
S E 3 (12・13)、S K 4 (16)、S K 5 (17)、S P 2 (23)、S P 3 (24)、S P 4 (18)、S P 5 (25)  
S P 6 (19~22)



包含層 (26~33・35~39)



全景（北から）



S B 1 (南から)



S B 2～4、S X 1 (北から)



S D 2 (北西から)



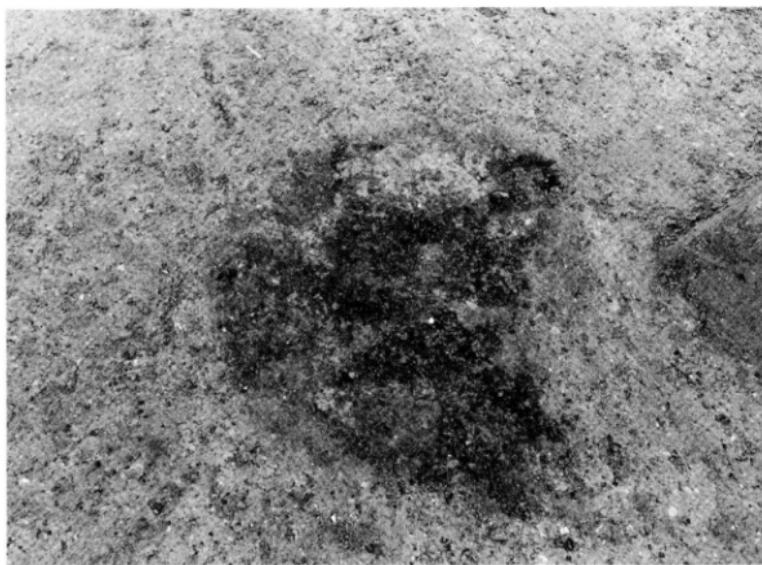
S E 1 (北から)



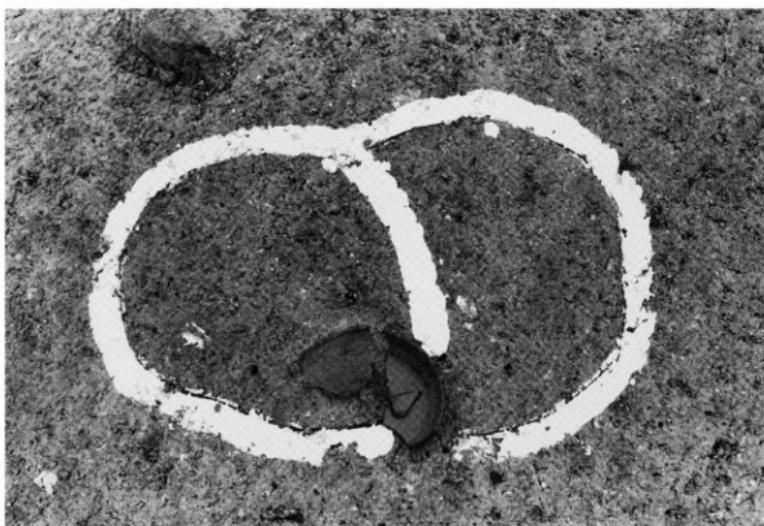
S K 1 (北から)



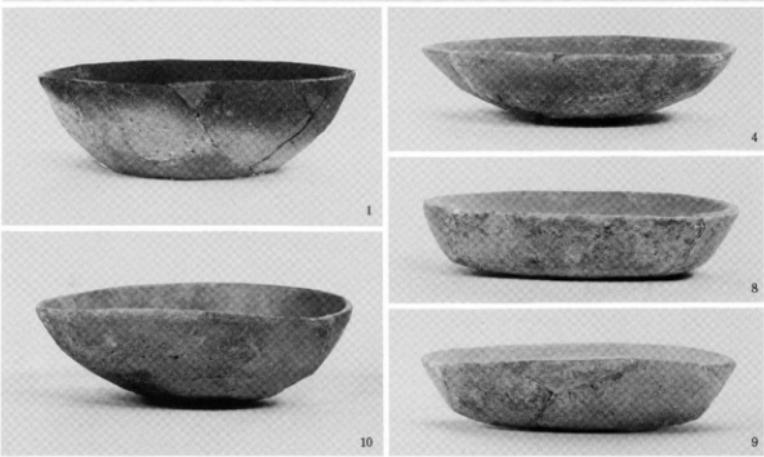
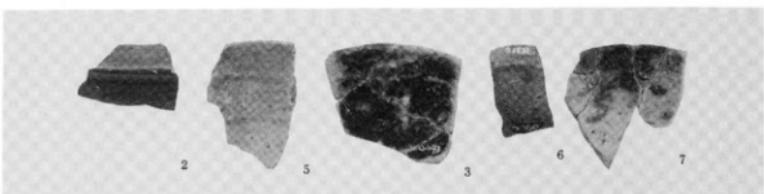
SK 2 (西から)



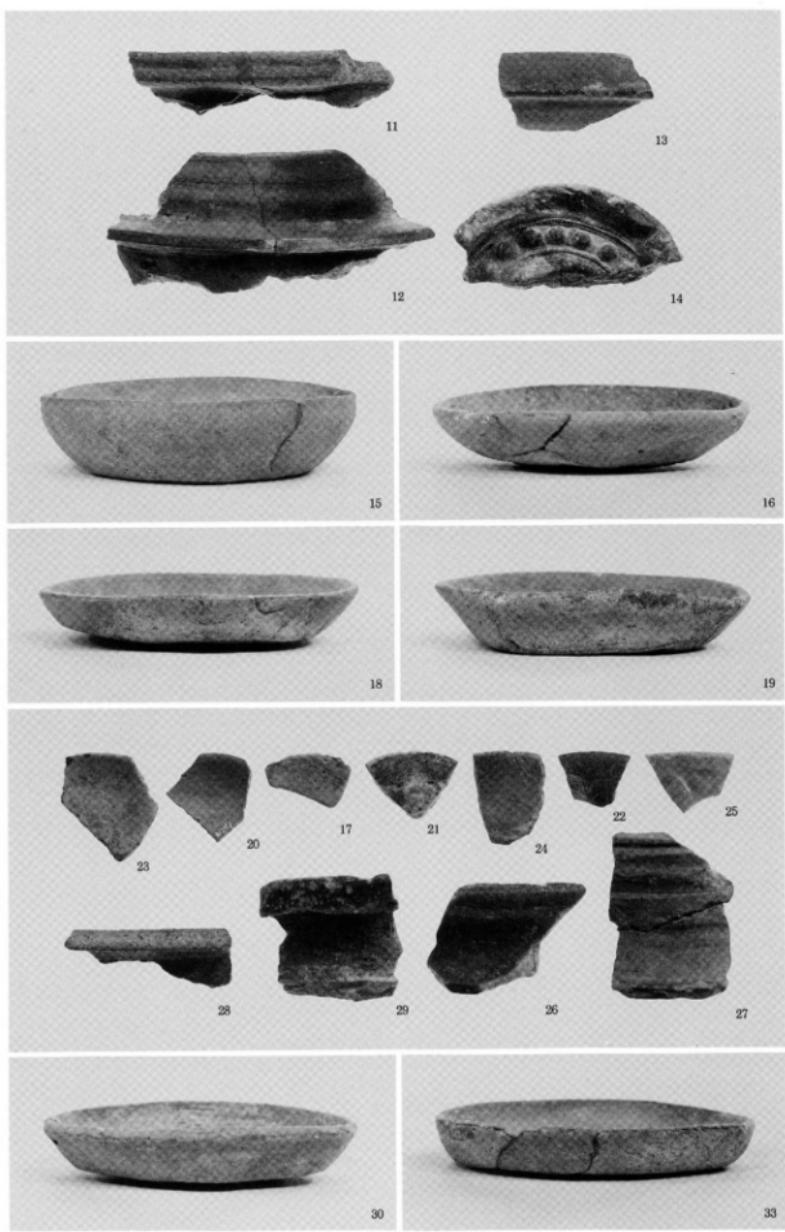
SK 3



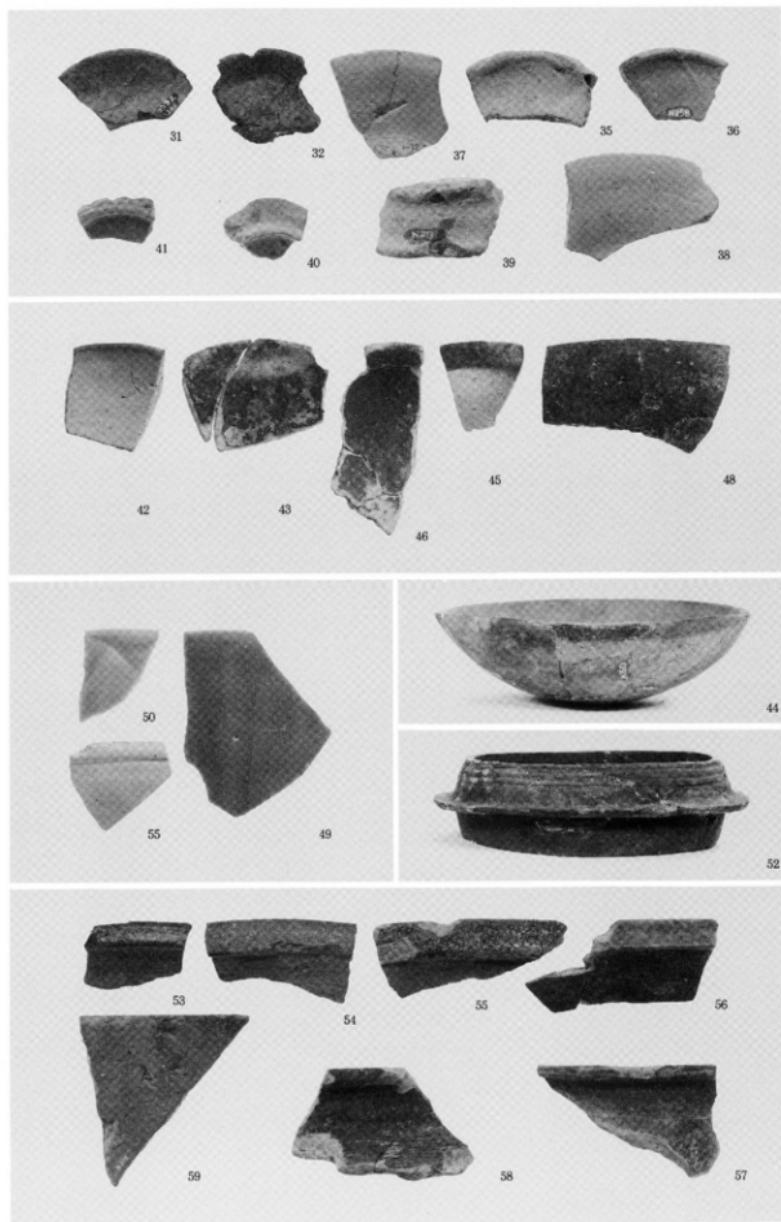
S P 1 (西から)



S B 1 (1・2)、S B 3 (3～5)、S D 4 (6・7)、S E 1 (8～10)



SE 1 (11~14)、SP 1 (15)、SX 1 (16~29)、包含層 (30・33)



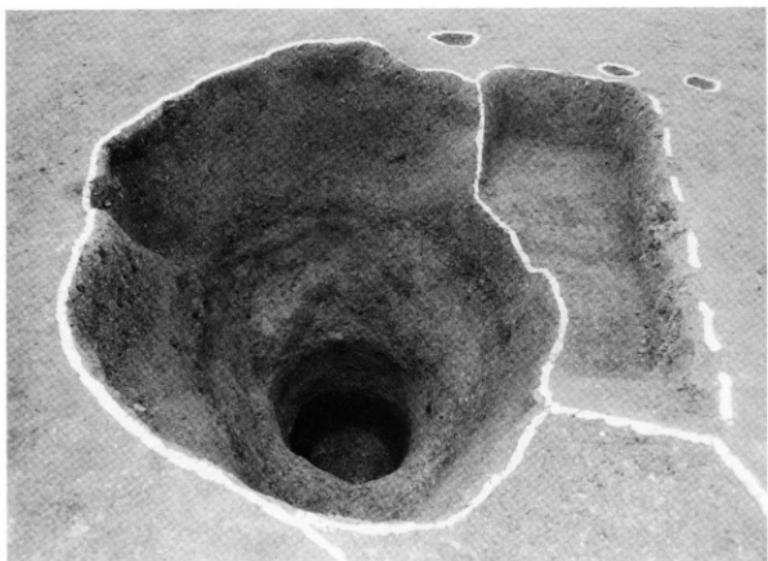
包含層 (31・32・35~46・48~50・52~59)



全景（西から）



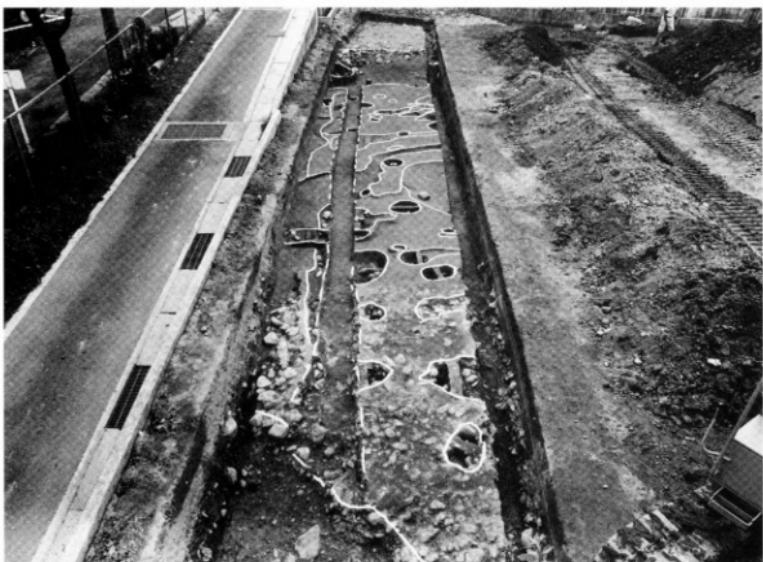
SD 3・6・7、SE 2、SK 7・9 (東から)



SE 2 (南から)



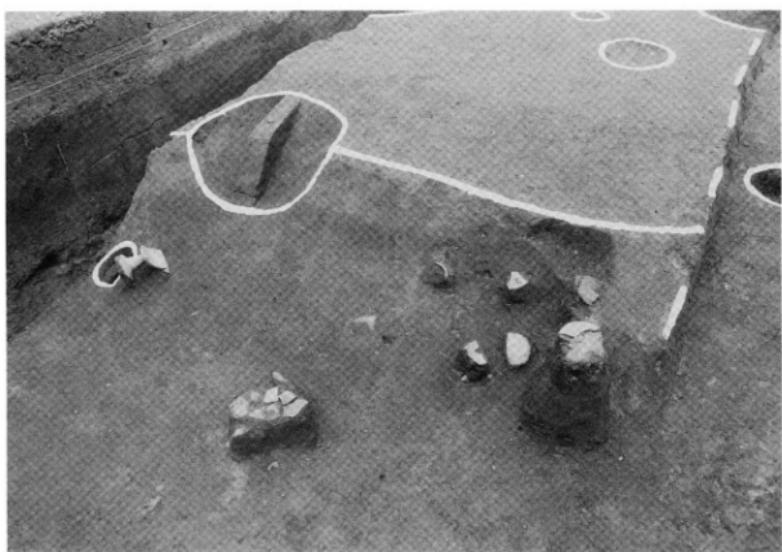
SD 18 (東から)、SD 3 (60)、SD 19 (61)、SE 2 (62~67)、SK 5 (68・69・71・73)  
包含層 (74~76・79~84)



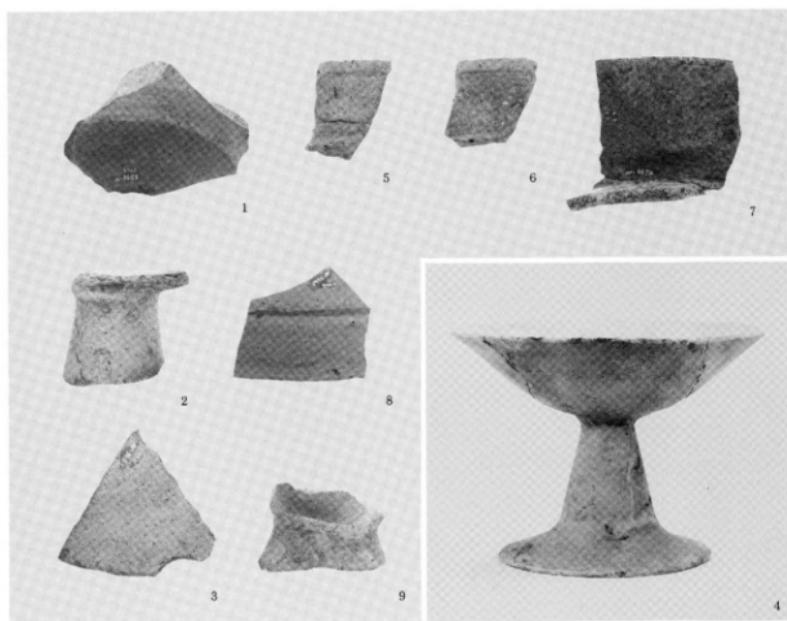
全景（北から）



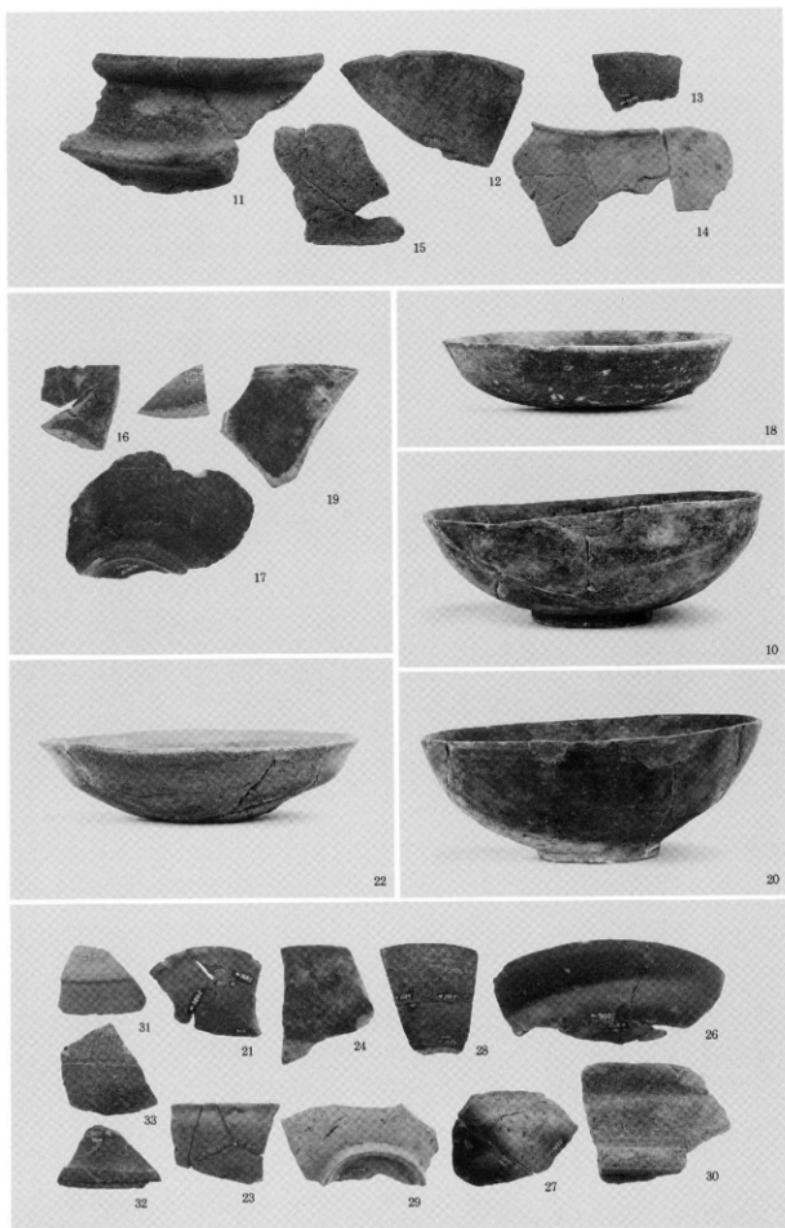
S D I (南から)



SD 1 遺物出土状況（南から）



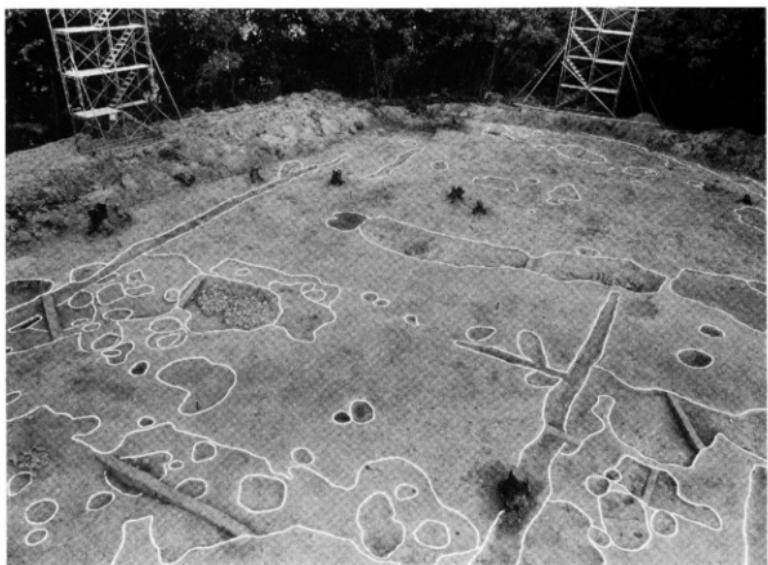
SD 1 (1~9)



S D 2 (10・11)、S K 1 (12~15)、S K 2 (16)、S K 3 (17)、S P 1 (18~20)  
N R 1 (21~24・26~30)、包含層 (31~33)



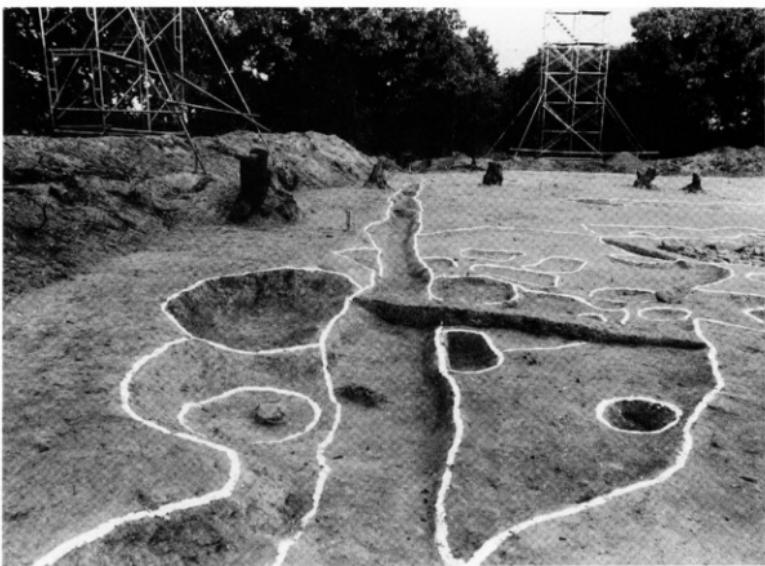
全景（北から）



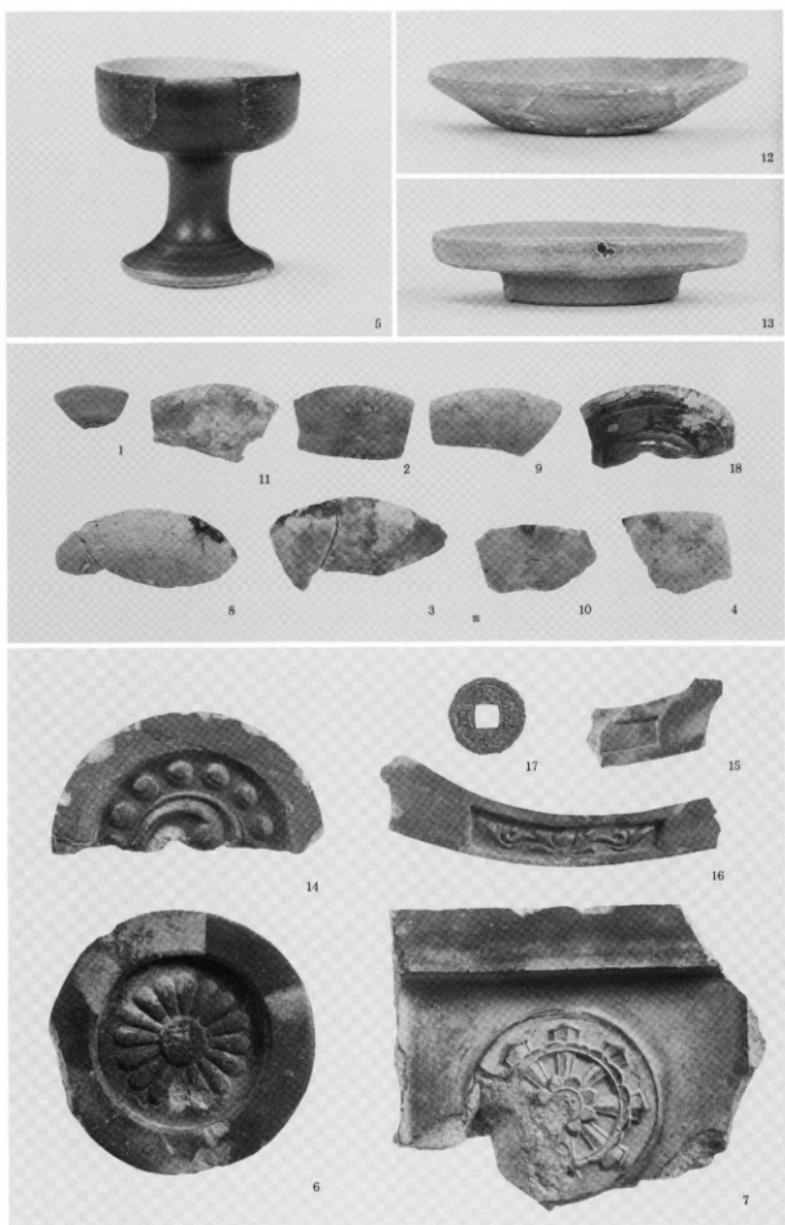
全景（南から）



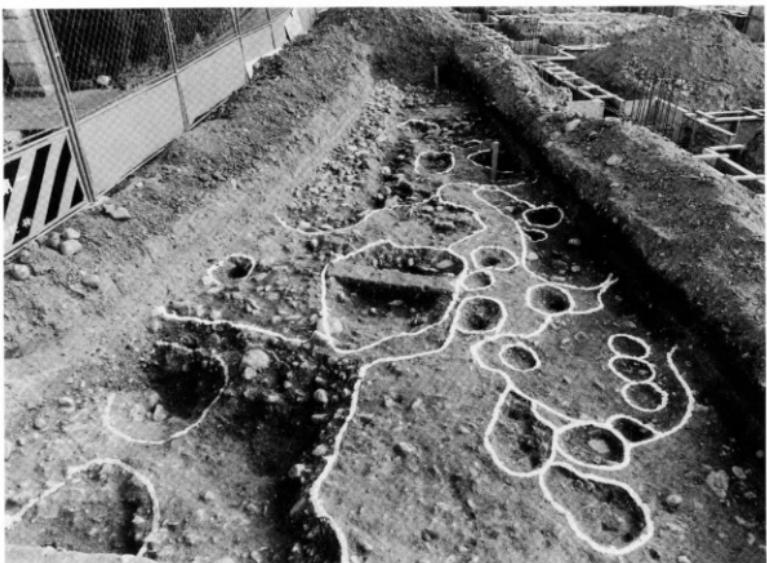
全景（西から）



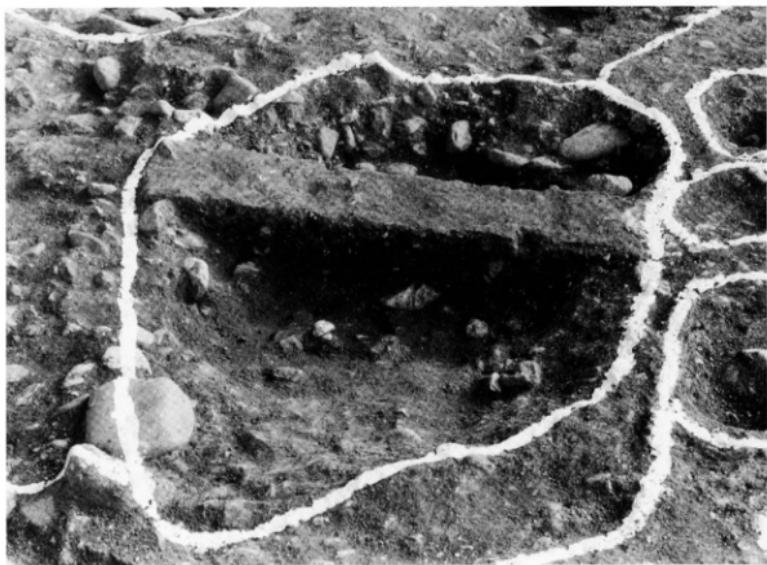
S D 2 (南西から)



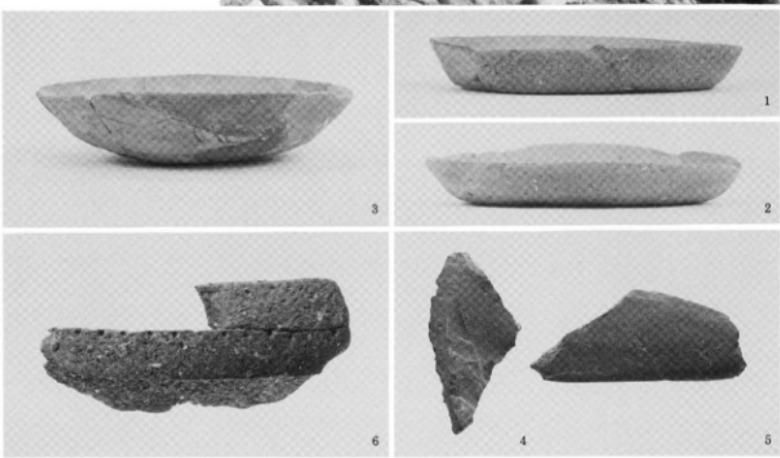
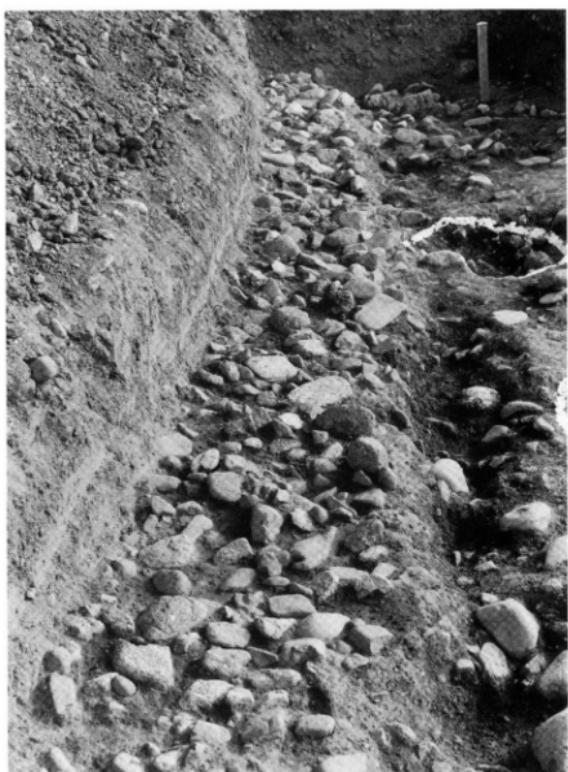
S K 1 (5)、SK 2 (6)、SK 3 (7)、SK 4 (1~4)、S X 1 (17)、S X 2 (14~16)  
S X 3 (11~13)、S X 4 (8~10)、包含層 (18)



全景（北から）



S K 1 (北から)



S K 1 (1~3)、包含層 (4~6)

河内長野市遺跡調査会報 XIII

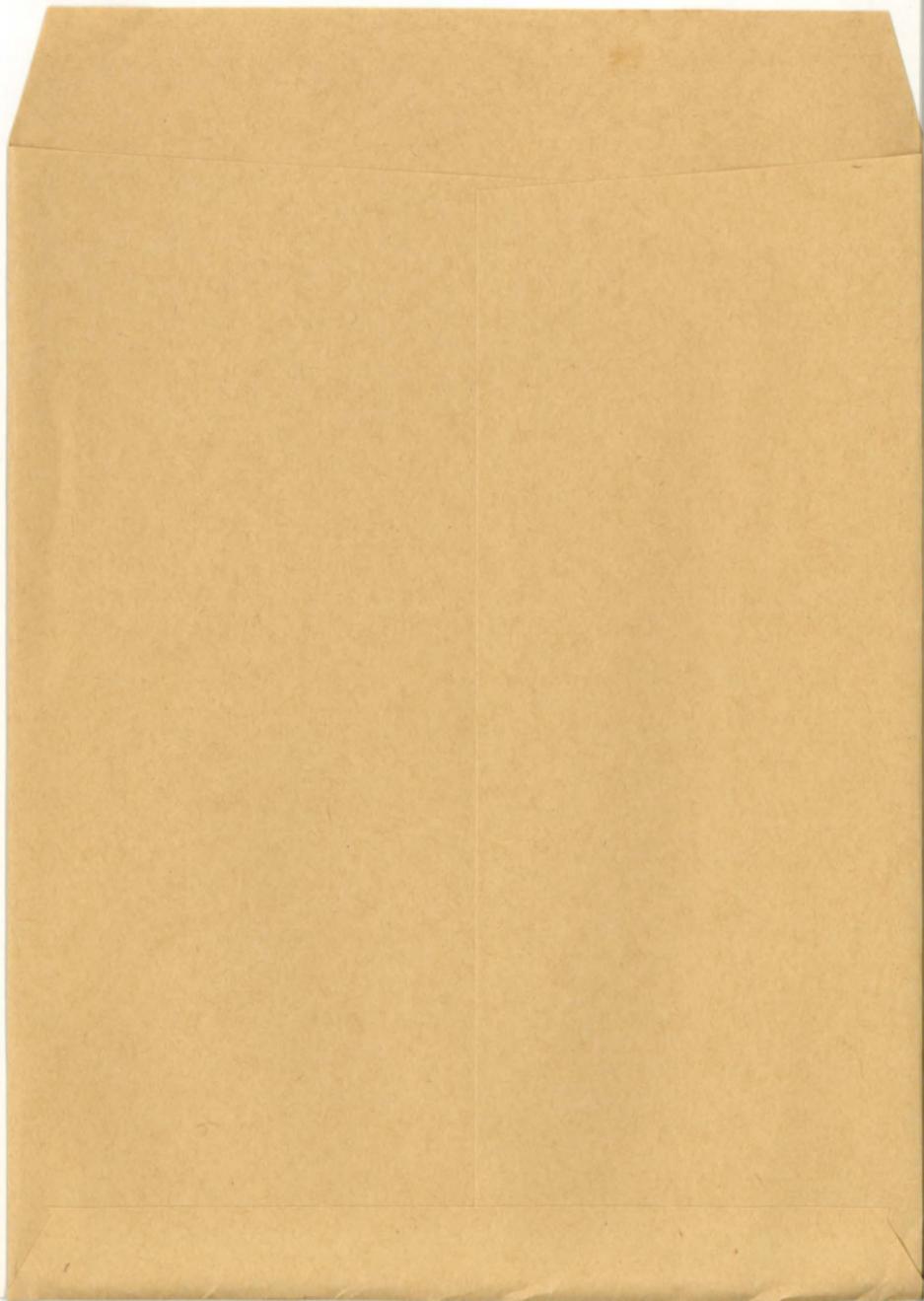
ジョウノマエ遺跡・尾崎遺跡・尾崎北遺跡  
・菱子尻遺跡・市町東遺跡

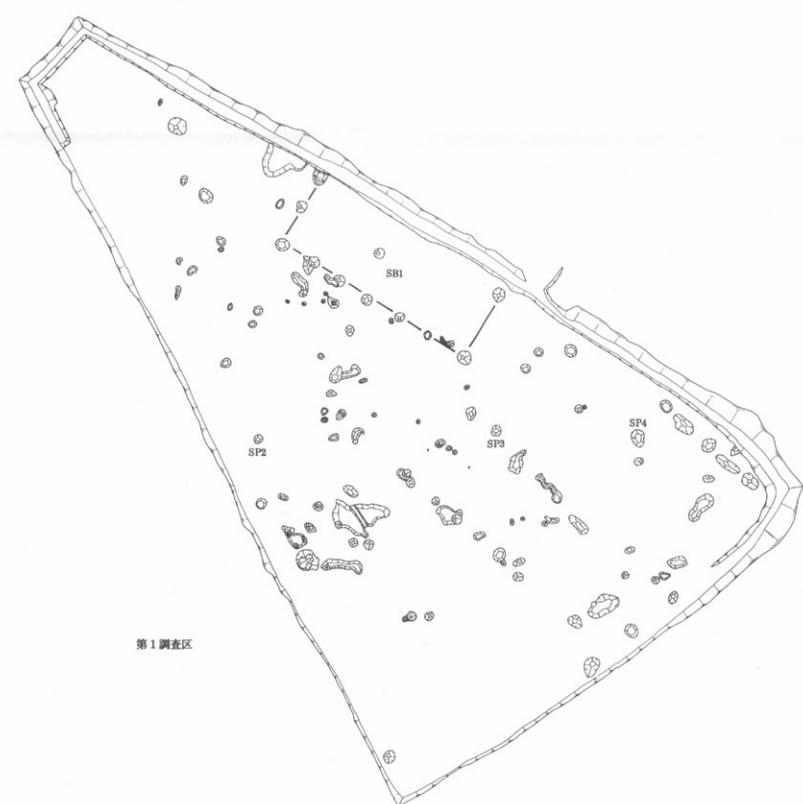
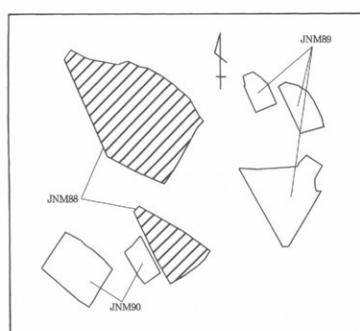
---

1996年3月31日発行

発 行 大阪府河内長野市原町396-3  
河内長野市遺跡調査会  
0721-53-1111  
印 刷 中島弘文堂印刷所

---





0  
20m  
-174.780 -36.800 -36.790 -36.780 -36.770

付図1 JNM88遺構全体図(1/100)



付図2 尾崎遺跡遺構全体図(1/100)

